

「能仁新報」よりみた名古屋の仏教（六）

——明治二十八年八月〜明治二十九年十一月——

川 口 高 風

凡 例

- 一、本稿は「能仁新報」に掲載されている現在の名古屋市内にあたる地域の仏教関係の記事を採録した。「能仁新報」（名古屋市朝日町五十六番戸 能仁社発行）の原本は東京大学法学部の明治新聞雑誌文庫に所蔵するものを使用した。同文庫には明治二十三年五月十二日発行の第一号より明治三十三年六月二十五日発行の第六四九号まで所蔵するが、明治二十四年六月八日（第五十七号）、六月十五日（第五十八号）、同二十七年九月七日（第三三三号）から同二十八年七月三十日（第三七〇号）、同二十九年十一月十六日（第四三八号）から同三十一年八月三十日（第五五五号）までの発行号数は欠本となっているため、その間の記事はない。
- 二、第六回は「能仁新報」第三七二号（明治二十八年八月五日）より第四三七号（明治二十九年十一月九日）までから採録した。
- 一、翻刻にあたり仮名使いは原文のままとし、旧漢字は新漢字に、変体仮名はすべて平仮名に改め句読点を付した。なお、記事に付してある漢字のルビは削除し、明らかな誤植は訂正した。
- 一、記事は掲載年月日順に配列したが、記事中に「当市」とあるのは名古屋市のことである。

雑報〔明治28年8月5日 第三七一号〕

軍人の葬儀 去一日、当市新出来町徳源寺に於て出征の途に病死せし小林玉太郎氏の葬儀を行はれしが、導師は同寺主にして、例により知事市長等の追悼並に会葬あり。愛知仏教会よりは仏旗を立て、送葬し、尚ほ総代をして吊文を読ましめたり。当日参拝諷經ありたる各宗は左の如し。

曹洞宗取締温嶽耕堂、日蓮宗惣代小川町大法寺、浄土宗西山派代表者白川町西光院住職伊藤寛瑞、曹洞宗大曾根関貞寺、大谷派赤塚町心海寺、本願寺派蒲焼町善導寺代理服部皆宣、出来町黄檗宗大竜寺、真言宗代表出来町東海寺、出来町大谷派覚運寺、愛知仏教会惣代広間隆円、

塚本第六聯隊長の謝状 同隊が出征中、本社より能仁新報を贈呈せしを謝すとて左の一書を贈られたり。

拝啓 当隊従軍中は、経始貴社新報御贈与被下、御護を以て永日間の休戦中鬱懐を送し千万難有存候。先は乍延行御礼まで如此候早々。 敬具

七月廿九日

歩兵第六聯隊

塚本大佐

能仁社御中

慰労会は記念章〔明治28年8月5日 第三七一号〕

本県熱田町野口慈善会に於て、去る八月一日全町白鳥山にて社員

水野を聘し報告大演説会を挙行し、続けて会員五十余名参集社員の為慰労会を催さし、席上会主は開会の旨趣を述べられ、且全会より従軍記念として純銀製の袈裟輪を贈る旨を告げて贈与せらる。次に水野は、起て一場の謝辞を述て杯盤の間に軍隊の忠勇を談する杯、壮快の限りなかりきと。全日は、野口吉十郎氏は参席して諸事を指揮せられたり。

本派法主の帰山〔明治28年8月12日 第三七二号〕

曾て名古屋に於て戦死法要を営み、又東京に赴きて三日間盛大なる法会を行ひ、其の後滞京中なりし同法主は、去る六日午前七時半築地別院を発し、新橋停車場より名古屋に着し、熱田より四日市に出で関西鉄道にて帰山せられたり。

曹洞宗愛知県第一号支局の命令〔明治28年8月12日 第三七二号〕

同支局にては、目下当市万松寺内に設立の同宗学林は其の地所及一部の建物は万松寺の所有なるより（実は、其の建物は前任生駒円之氏より寄付せしも未だ名義書換なき者）、左の一書を新任職吉川義道氏より提出され、支局にては諮問案と題して別項の号外命令を出し議員を招集せんとせり。

写 学林生徒室之儀に付願

当寺内学林生徒室之義、先住生駒円之時代より御使用に供し居候処、今般元僧堂買戻したるに依り、此際寺門の風致改良を加へ度、又一面経済上無止事情も有之候に付、生徒室を僧堂の南

方に移転し、尚ほ僧堂も併せて学林の使用を願而して、生徒室は購得を願、僧堂は借受けに相成候様致度、其金員の関係并に条約等の義は篤と御協議の末へ差定致す事に願度候間、何分の御詮議至急被成下度、茲に上願仕候也

明治二十八年七月三十日

名古屋市裏門前町 万松寺住職

吉川 義道

愛知県第一号曹洞宗務支局

御 中

然るに、其の諮問案と称する者は左の如くなるも、元来此の諮問案と題する者は、管内議員の承認を経ずして吉川氏の出願に対し支局にて成案し、其の成案を強て執行せんとする者なりとの見を抱く者多く為に、該案は消滅したりとの説あれども、併せて茲に掲ぐる事とす。

号外

管内議員幹事中

諮問案

- 第一 学林事件に関する担任委員を正補四名設ぐる事
- 第二 担任委員は議員幹事に於て投票撰挙すること
- 第三 担任委員候補者は各支分局より一名つゝ撰出すること
- 第四 担任委員の当撰を得たる人は辞退することを得ざるものとす
- 第五 担任委員の衣資料は一ヶ月金十二円となす
- 第六 担任委員は当路職員と協議し、学林移転前途に関する

利非得失を講し方案を設けて議会の協賛を得るものとす

第七 担任委員投票開緘には議長の立会を要するものとす

第八 投票は本月八日迄に遅滞なく宗務支局に郵着の取計を要するものとす

但し日限に後れたるものは無効投票となす

第九 投票開緘は翌九日に施行するものとす

第十 当撰者へ直ちに当撰状を下付するものとす

第十一 担任委員撰定の上は本月十八、九日頃臨時議會を開設するものとす

第十二 以上の件々各支分局議員に諮問し協賛を得るものとす

右は別紙写の通、万松寺住職吉川義道の出願に対し、当路職員協議の上方案を相定め候条、速に協賛相成度併て第二条に拠り、直ちに投票撰挙の取計ひ有之度

但し何等の回答無之ときは此方案に賛成と見なす

右諮問に及候也

候補者は左に記名候

明治廿八年八月二日

曹洞宗務支局

曹洞宗務支局

曹洞宗務支局

曹洞宗務支局

曹洞宗務支局

曹洞宗学林の移転説〔明治28年8月12日 第三七二号〕

前項に記す如く、当市万松寺に在る同学林は、其の地所も同寺前

住の頃より無約定にて借り物たるのみならず、其の建物も生駒氏

住の頃より無約定にて借り物たるのみならず、其の建物も生駒氏

の寄付物にして、彼我の所有権をさへ未だ確定したる所なきより、今回新任となられし吉川義道氏は、別項の如く移転立退き方を支局に願ひ出でられしより、支局にては成案を作り建築委員等を設けんとせしも、元來該件の如きは宜しく議會を召集せし上にて議案を作る可き者なりとの事にて、過日來有志家は大に前途を苦憂して態々支局に出頭注告せらるゝ所ありて、該件は多分穩に纏まりし由なるも、吉川万松寺新任の願出もあり且学林をして斯る市内熱鬧の地に置くは勉学上に害なきを保せずとて、愈々他に然る可き地を下し、永久に曹洞宗共有の学林として新築すべきの議既に勢力を得、銳意熱心に尽力せらるゝ寺院は、県下にて知多郡を始め既に四百余ヶ寺の多きに及びし由、因に現内務大臣が学制に関する訓示ありし折といひ、同宗の爲には新校舎建設の説ある如きは、頗る嘉すべき佳報にあるなり。

曹洞宗学林の証書授与式〔明治28年8月12日 第三七二号〕

愛知県第一号曹洞宗中学林に於て、昨十一日第四回の修了証書授与式を執行せられたるが、其景況は門前に仏旗を交叉し提灯數個を掛け万松寺仏殿を式場と爲し両祖真前に供物を備へ、準備整ふや午前九時より殿鐘三會來賓職員生徒一同上殿し、献茶監理竜桑巖師の導師にて読経了て生徒へ証書並に賞典を授与し、職員祝詞來賓の祝詞生徒の答詞ありて和氣鬢髮の内に式了りて宴會を催せり。某來賓者は同宗取締及総講長、各支分局幹事等の諸氏にて頗る盛大なりき。尚祝詞等は次号に掲ぐ。

将校の葬儀〔明治28年8月12日 第三七二号〕

去る八日、当市小町渡辺為次郎氏方□□□町海福寺に於て行はれし故陸軍三等軍医太田光三氏は、從軍中病に罹り広島陸軍病院にて死去されしに付、同氏の実兄喪主となり、市會議長等の斡旋ありて盛大なる葬儀が奉行せられたり。当日は市長、愛知病院長、愛知仏教会代表の吊文朗読あり。学校生徒等無慮二三千名の会葬あり。例により仏教会よりは仏旗を贈りたり。又同日參勤会葬の寺院は左の如し。徳源寺老師以下三十余名、天台宗副取締佐藤興応、浄土宗小沢弁応、西山派奥村觀逸、曹洞宗代理福田眞定、眞言宗代理齊木法諍、眞宗本派竜田実言、大谷派山田尊昭氏の外に金剛寺、正覚寺、養成寺、願興寺、慶栄寺、法蔵寺その他数寺院ありたり。因に左の吊詞は、太田氏の略歴を述べたる者なれば爰に掲ぐ。

今茲に故陸軍三等軍医太田光三君の葬典を挙ぐるに際し、同僚諸氏に代り聊か清花を供へ、君が尊靈を吊祭し併せて薦むるに卑詞を以てす。抑も君は、明治十九年六月初めて我愛知医学校に入り、孜孜として蜚雪の労苦を積み、明治二十七年十二月其業を卒へ、直ちに一年志願兵として第三師団第六聯隊に属し、汲々其勤務に従事し本年四月撰拔せられて三等軍医に榮進す。時方きに我膺懲□王師連戰連捷遼東を席卷し、尚ほ兵馬倥偬□秋なるを以て君も亦第二軍兵站監部付を命ぜられ、金州の出征軍に加はり。其任務に欠掌し全月近衛師団野戰砲廠付に転じ、次で六月台湾に進行するに至れり以来、益君が技量を振ひ、大

に国家に尽す所あらんことを期せしが、然るに天なる乎、七月病兵を内地に送輸するの命を受け、航行の途船中に於て偶々脚氣病に罹り、帰着の後ち広島陸軍予備病院に入り専ら療養を竭せしと雖とも薬石其効を奏せず。遂に去月二十二日溘焉不帰の客となれり。嗟乎曾て君が在学中は、吾輩一日の長を以て日夕相見えしが故に、殊に痛惜の情に堪へず。曩には柴田鉦太郎君を亡ひ、今亦君と幽明其域を異にするに臻れり。嗚呼哀哉。

明治廿八年八月四日

愛知医学校長 従六位熊谷幸之輔

曹洞宗学林の卒業式（明治28年8月19日 第三七三号）

当市□□同□にては、去る十一日卒業生徒に証書の授与式を挙行されしが、当日は支局受締以下支分局幹事等の来林あり。監理大光院主の告辞あり。教諭の祝辞、生徒の答辞あり。授与了て酒飯の饗ありしが、当日山田教諭の祝辞及び受証生徒の人名は左の如し。

中学林四年級卒業、鈴木敬 □
 中学林二年級卒業、石田克明
 中学林一年級卒業、水谷良禪
 ○児塚大句、杉山吟竜
 小学林三年級卒業、石原人溪
 加藤良宗、

小学林二年級卒業、山本禪扣

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（六）

山内玄竜、原大典、伊藤靈瑞、杉春洲、佐藤雲昇、西村国之、安藤黙笑、橘宗範、

小学林一年級卒業、大矢泰英

前田達道、柴田徳戎、加藤俊栄、塚本活竜、木村玉晃、篠田真道、墨田芦舟、鈴木千丈、篠田正順、

賞典授与者、一等賞、鈴木敬嶽、水谷良禪、山本禪扣、大矢泰英、前田達道、

二等賞、石田克明、石原大溪、加藤良宗、山内玄竜、柴田徳戎、塚本活竜、

三等賞、原大典、伊藤靈瑞、加藤俊栄の諸氏なりき。

真宗講話会（明治28年8月27日 第三七四号）

同会は、今廿六日午後一時より市内押切町養照寺に於て、過日來京都に滞在し、本日帰東せらるゝ帝國大学講師にして真宗大谷派の擬講村上専精師を招聘し講話を開会せらるゝ由。流暢明快なる師の広長舌は、能く聴者をして愛樂満足せしむるに足らむ。

曹洞宗学林の祝詞（明治28年8月27日 第三七四号）

前号に記すべく如く記載したる当曹洞宗学林卒業式の際、山田祖学氏の読みたる祝詞は左の如し。

愛知県第一号公立小学林第四回卒業証書授与並中学林修業書授与式祝辞

抑も我学林は、創立日尚ほ浅し。加ふるに宗海狂瀾怒涛の渦中

に投せられ、国家益有事の時に際し、開閉常なく聚散窮りなきの境遇に接し、随て其事業も亦稍退歩せし之感なき能はず。然るに因縁循環し、昨年九月を開林するを得、爾來其歩を旧に復し漸く其の業の端緒を見るに到る。是れ専ら県下諸寺院諸師が財政の困難なるにも拘らず、其の費用を分担して機管の運転に障礙なからしめしに憑るにあらざれば、曷ぞ今日に斯の盛典を挙るを得んや。

願ふに世の教育は、日に月に進歩を累ね随て人知も亦大に発達す。然り斯の国民に対する宗教家たるもの内、宗旨に精通し外、普通の科学を修め以て上み優渥なる教育勅語の旨を奉戴し、下も国家に酬ゆるは固より内務大臣の訓令を待て然らんや。

既に諸君は其の業を卒ふも、前途尚ほ遠速速成を期する勿れ。胡息に着する勿れ。小水の石を穿つが如く一簣の九仞を為すが如く、爾り古人曰、業は動むるに成て怠るに荒たると。宜哉不立文字、教外別伝の意を誤解して痴呈暗証混沌にし去るの弊に流れず。又依文解義の徒に慣はず、宗説般々の旨を体し、将来国内の風を扇揚するは諸君の任なり。嗚呼諸君の任も亦重、且つ大ならずや。諸君請ふ努力せよ。予や不敏日夜戦々競々、其の任を完ふせんことを期す。然れども多く諸君の希望を空ふして、徒に其職を汚すのみ。今や此の盛典に臨み、聊か卑見を吐露して祝辞に代ふ。

教授 山田祖学敬白

大施餓鬼と説教〔明治28年9月2日 第三七五号〕

当市七小町の曹洞宗普蔵寺にては、来る七日午後二時より、組合寺院を集め例年恒規の大施餓鬼を行ひ、尚ほ水野道秀、早川見電両氏の説教を催す筈なりと云ふ。

広告〔明治28年9月9日 第三七六号〕

来る十六日午前十時より本宗大本山 永平寺大禪師 猊下を拝請し台湾賊徒鎮 高祖大師 御祥忌修行並に御親教を仰候条御参詣被下度候也

於大光院 吉祥 講

広告〔明治28年9月16日 第三七七号〕

来る十六日午前十時より本宗大本山 永平寺大禪師 猊下を拝請し台湾賊徒鎮 高祖大師 御祥忌修行並に御親教を仰候条御参詣被下度候也

於大光院 吉祥 講

南外堀町の説教所〔明治28年9月16日 第三七七号〕

真宗大派の同説教所は、曩に酒井平兵衛氏の所有地に建立したる者なるが、同氏は中途にして中症を頗ひ為に説教場も荒廢に属せしを、今回更に同地所等、鶴重町の安浄寺に登記済の上にて永代寄付されたりと。因に同場にては、来る廿日より長円寺竜山氏の説教を催さるゝ由。

施薬院の追悼会〔明治28年9月16日 第三七七号〕

当市の同院にては、来る廿四五の両日同院へ義捐金品を贈らるゝ諸氏の先亡追善の為に、各宗の僧侶を招きて同院安置の太子前にて法要を行ふ由。因に同院へ義捐の施米袋は引受け方増々好況にて、本町筋の如きは家並に之れを諾せられたりと云。

起工式〔明治28年9月16日 第三七七号〕

大須観音堂の仁王門は、当市門前町の有志より再建寄付する事となり、一昨年来同町内に数名の再建委員を撰任して専ら尽力し居たる処ろ、寄付金も半纏まりたるを以て、伊藤彦八が工事一切を受負ひ、愈よ来る十八日に其起工式を行ひ、向ふ三ヶ月を期し悉皆成功の見込なりと云。

少年教会〔明治28年9月16日 第三七七号〕

昨日菅原町浄教寺に於て行ひ、水野道秀氏講話を為す。

半僧坊の例祭〔明治28年9月16日 第三七七号〕

当市栄町半僧坊にては、今明両日例祭を行ひ両日とも相撲手踊にわか等の奉納ある由なれば、定め賑合ことならん。

広告〔明治28年9月23日 第三七八号〕

十月八日より同十四日迄

授戒会修行

戒
師 性海慈船大禅師

於松山町 安齋院

安齋院の授戒〔明治28年9月23日 第三七八号〕

別項広告の如く、同寺にては曾て永平寺貫主を請じて、来月八日より授戒会を催す筈の処、本山の都合により一日を延期し、同九日より十五日迄とし、其の戒弟も人数を限り極めて静粛に営まんとこの事なりしも、入戒の申込み非常に多く、為に三百余名の超加員を生ぜしを以て、遺憾ながら申込を謝絶せらるゝに至りしも、其の員数八百余名なりと云。

永平寺大禅師着名の概況〔明治28年9月23日 第三七八号〕

稍旧間に属すれども、全禅師には予期の如く、去□□五日午前九時廿□分笹島停車場に着せらる。全所へは曹洞宗寺院五十余ヶ寺、全宗信徒及吉祥講中一百五十余名程出迎はれ、全禅師には馬車にて、出迎一同は腕車を列して森本善七氏宅へ安着せられた。全日午後三時より森本家別家中の催に係る故周光尼二七日忌法会に臨まれた。翌十六日大光院に於て挙行せられたる吉祥講大法会は、前門に仏旗を交叉し数百の紅灯を点し、午前十時より全宗寺院七十余ヶ寺参集、大禅師出勤、大般若経を転じ陛下万歳及陸海軍人の武運長久台湾賊徒鎮定□祈念あり。随て随行監院吉川義道氏、温嶽耕堂二氏の説教あり。午後一時より出班焼香にて宗祖忌の法会、随て禅師の親教あり。全日は早朝より郡村の参詣者続々

詰掛け、午後一時頃は流石に広き全院境内に充溢し、殆んど三千余名の参詣なりき。

大谷派別院法要〔明治28年9月23日 第三七八号〕

下茶屋町大谷派別院にては、来る十月十二日より十五日迄、真無量院殿一周忌法要、其翌十六日は春秋彼岸会経の御紐解を執行し、尚又十七日出征清軍隊死亡者大追吊会修行の事に決定したるにより、十月十二日より御連枝参勤者を始め本山より来名。十四日には御門跡着名の上、十五日よりの法要を親修せらるゝ旨本山より通達ありしと云。

皇太子殿下の御脳平愈祈祷〔明治28年9月23日 第三七八号〕

皇太子殿下の御脳平愈祈祷を去る十九日門前町善篤寺に行ひ、中村頼宗氏の導師にて大殿若を転読せり。

本堂改造〔明治28年9月23日 第三七八号〕

当市七ツ寺境内の善光寺出張所にては、去る廿日本堂改造の起工式を棟梁竹中氏が行ひたり。

軍人の葬儀〔明治28年9月23日 第三七八号〕

来る廿四日、故第六聯隊四中隊の清辺米吉氏の葬儀を橘町延広寺にて行ふ由。

広告〔明治28年9月30日 第三七九号〕

十月八日より同十四日迄

授戒会修行

戒
師 性海慈船大禪師

於松山町 安齋院

特別広告〔明治28年10月7日 第三八〇号〕

尚徳会 法話
演説 公告

講師

真宗本願寺派一等巡教使

赤松連城師

八月八日午後一時より

於門前町本願寺別院

傍聴券は今回に限り一般に当日同別院内に於て渡す

特別広告〔明治28年10月7日 第三八〇号〕

授戒会 安齋院

請戒師大本山永平寺御貫主大禪師
来八日午後十二時卅二分笹島停車場御着

永平寺御貫主大禪師

安齋院

戦死者追吊会と仏教演説〔明治28年10月7日 第三八〇号〕

本月七日、海東郡千音寺村長禪寺に於て、同村青年会員の發起にて近藤疎賢、青山竜次郎の両氏を招待し、戦死者追吊会並仏教演説を開会する由。

近藤疎賢氏の動靜〔明治28年10月7日 第三八〇号〕

有為僧侶の一人と数へられし同氏の消息は、近頃更に聞く所なかりしが、氏は目下自坊に七、八名の雲衲を養ひ傍ら、信徒に向つて説教に従事し居らる。

総見寺の開山忌〔明治28年10月7日 第三八〇号〕

裏門前町の同寺にては、前妙心の関無学師を戒師に、徳源寺の三関実叢師を称名師に請し、左の如く法要を修行せらるゝ由。

十月十九日午前九時勸請開山七百年創建、開山三百年忌齋会、午後一時上棟式、午後三時入仏供養、廿日午前八時祈祷大般若了テ授戒加始行、午後施餓鬼並ニ説教、廿一日ヨリ廿五日同毎日午前八時ヨリ加行、午後説教、廿六日満戒登壇、廿七日、廿七八年戦役戦病死者追吊大法会。

尚徳会の講話〔明治28年10月14日 第三八一号〕

去る八日、当市西別院に於て行はれし同講話会は、雨天なりしにも似ず聴衆は定時前より続々参集し、会場の書院は満堂立錫の余地もなく、殆んど二千名に近かりき第一席は、社員広間隆円氏は

尚徳会の主意を述べ、次に赤松師は二席に別項記載の演説ありたり、当日は奏楽の催あり。又本社は帝国議会の速記者猪飼鉄太郎氏に二席共速記を依托したれば、逐号之を掲載すべし。

法主と連枝の来名〔明治28年10月14日 第三八一号〕

当大谷派別院にては、一昨日より前住の一周忌法要修行に付、同日より長浜別院の連枝は来院せられ、本日は又桑名別院の連枝、又明後日戦死追悼法会のために法主大谷光瑩師は来名せらるゝ由。

越山禅師の来名〔明治28年10月14日 第三八一号〕

永平寺貫主性海慈船師には、去る八日午後零時三十分の汽車にて笹島へ到着せられしを以て、曹洞宗の寺院七、八十名は腕車を聯ねて奉迎せり。禅師は馬車にて信徒を併せ二百有余名と共に松山町の安齋院に入らせられ、入殿上香五磬三拜、了て出迎一同に請せられたり。偕翌九日よりの授戒は戒弟八百余名にして、禅師には毎朝三時起床、親しく出堂衆僧に接して懇に道心を喚起せしめらるゝを以て、孰れも随喜欽仰満面□□。其の他戒弟にも日々々念を絶ち法味を嘗め居れ□□。殊に今回は、能山の後堂も来会せられ、説教師安齋院主以下来会の僧侶は百十余名なりと云。

報恩会と説教〔明治28年10月14日 第三八一号〕

当市裏門前町の久宝寺内に置□せる愛知吉祥講支部にては、昨日午□□時より組合寺院出席して宗祖承陽大師の報恩会を行ひ、尚

ほ征清台軍忠死者追吊の法会を修し、夫れより温嶽耕堂、竜桑巖、早川見竜三氏の説教ありしと。又た来る十五、十六の両日、知多郡藤江村の安徳寺に於ては戦没者の追悼会を催し、右早川氏を請して日昼夜の法話を開く予定なりと。

施薬院の法要〔明治28年10月14日 第三八一号〕

同院にては、来る廿四、五の両日同院へ金品を義捐したる者の為に、廿四日は各宗にて、廿五日は真宗三派にて法要を行ふ由。又永平寺貫主は金十円を寄付せられたりと。又同院にては施与袋と称し、各戸より米を義捐せしむる方法を兼ねて設けられしが、右は本町京町伝馬町等の各町は大抵戸毎に配付したりと。

江湖会〔明治28年10月14日 第三八一号〕

江湖会尾張丹羽郡布袋町大字小折曹洞宗常観寺住職桜井鶴仙師は、該寺檀信徒の協賛を得て、来る十一月十五日より尚九十日間征台軍人諸君健全と鎮定を祈祷し、且つ討清台忠死者英霊雄魂を吊慰せん為め、西堂は名古屋市門前町善篤寺住職中村颯宗師外三十余名の僧侶を請し江湖会を挙行し、普く顕幽二途の楽土を莊嚴せらるゝ由。

広告〔明治28年10月14日 第三八一号〕

十月十九日

上棟式並入仏供養

十月廿日より廿六日迄

授戒会

戒師妙心前管長関 無学禅師

徳源寺住職三関実叢禅師

十月廿七日

戦病死者追吊大法会

本市裏門前町

総見寺執事

安齋院に於ける美談〔明治28年10月21日 第三八二号〕

当市松山町の安齋院主野々部至游師は、能く其の宗風を尚び常に雲衲を養ひ専ら所化の教導に尽力せらるゝ事は、曩に世に聞え高き所なるが、然るが故に其の帰依者より往々世に伝へまほしき美談を漏れ聞く中にも、去る九日より永平寺貫主を請じて授戒を営まれし、その際の如きも既に能仁に記して報ぜし如く、一千余名に近き戒弟ありて、近来になき盛会なりし、其の十三日に当り、兼ねて同寺に帰依の当第十九聯隊の将校平岡某氏の祖母リヨ（七十二）は、兼ねて吉祥講に加はり得たりしに、恰も本年は其の当箋にて本山永平寺に参詣すべき筈なるも、何分老体のみならず近頃発病して歩行も自由ならねば、代人にても参詣せんと志願ありしも、幸に永平寺貫主の来名され安齋院にて授戒のある筈なれば、其の機を待ち登山に代へんとて禅師の御着を待ち居られしが、偕十二日といふに至り平岡氏方より明日は参拝ある可しとの

通知ありしも、同院にては彼の老体にては仲々参拝の事も叶ふまじきと思ひ居たりしに、翌日に至り令娘同道病体を担はれつゝ来院され、院主の室にて打ち臥したる俣禪師に拜謁し、若干の香資を献し三帰戒を受けて退院されし途に強て沐浴し、帰宅後は殊なりたる煩ひもなくして眠るが如く、去る十七日病没され、榮昌院賢室貞鏡信女として同院に葬られしと。

大谷派別院の追悼法会〔明治28年10月21日 第三八二号〕

去る十二日よりは前号に報ぜし如く、前住法主の一周年忌を修し、十七日には戦病忠死者の追悼法会を営まれし景況を報ぜんに、同日は縁行道と称し煉を以て入堂阿弥陀経の誦誦あり。了て法主は遺族に対し一場の親教あり。次で渥美執事は復演して国の為君の為に死を遂けしは願つても叶はざる次第等頗る有益の演説あり。来会の將校その他には対面所にて折詰の饗応あり。長浜別院の連枝には其の席に臨み挨拶ありたり。

総見寺の上棟式〔明治28年10月21日 第三八二号〕

当市裏門前町総見寺の住職酒井恵遂師は、明治廿二年全寺再建に従事し、起工以来七年の間終始一日の如く倦まざるの結果、本堂庫裡玄關位牌殿大書院等全く新築成功を遂ぐ。依て本月十九日開山の七百年祭を兼ね上棟式並に入仏供養稚児投餅其の他余興もありし由、又廿日より新出来町徳源寺の三関老師出席にて一周間の授戒会を営まれ、右に付妙心前管長無学禪師は十八日来名、伏見

町今井仙三郎方へ投宿、翌日全寺へ晋山せらるゝ由。

総持寺貫主の来名〔明治28年10月28日 第三八三号〕

曹洞宗大本山能登国総持寺の貫主禪師は、將に来月を以て本県に來錫せられんとす。禪師は曹洞の大徳なり。否能山の貫主なり、去れば敢て吾人が其の貫主を門末に勧誘して歓迎せしめずと雖も、派内の輩は、必ずや進んで其の輿下に集り、法席に僉集して、其の化を蒙らんと欲するや疑ひ勿らん。然るに爰に吾人の甚だ杞憂に堪えざる者ありて存ず。杞憂とは何か曰く、曾て同宗には両山分離の難問起れり、併も能山は其の首唱者なりき。然るに此の問題の生起するや、或は付和雷同したるあり。或は之れを排斥したるあり。而して我が愛知県下は実に其の排斥の根蒂とも謂ふべき地にして、全末寺の意向は悉く非分離に加担し、随て門葉も之れを体認せり。故に彼の難問の尚ほ未だ衰へざるの時に当りてや、殆んど分離を唱導せしものは伍班の間に列齒するを許さ、りき、越えて漸く本年に至りて両山協和、難問調停の幸運に至り、我が県内の同宗寺院以下の先見は、果して分離党の意見に打ち勝つ事を得たるの觀を生ぜり。是れ強ちに、非分離党の全勝といふに非ざる可けれど、首唱の分離派の意見の貫かざりしは、先づ本県下寺院の為に先見の明ありしと謂ふて可なり。斯く本県下の同宗寺院は既に先見の明ありき、然らば其の両山講和の後□至る今日にして、尚ほ既往に執着し、分非論当時の見を眼中に止めなば、啻に先見の明を蔽ふのみならず。其の狭見を世に発表

するに均し、吾人も固より初めより分離を甚だ非とせり。然れども今日の如く両山協和昨非消散、曉夢覚めたる朝に於ては、更に之れに両山の見あるなし。故に吾人は切望すらく愛知県下の同宗門末は、快活に能山貫主来錫の機を幸とし、大に之れを歓迎し悉く其の法席の下に集り、挙げて今回修行の忠死者追吊の大法会に加はられん事を、是れを全県下の同宗寺院に望む。

広告〔明治28年10月28日 第三八三号〕

尚徳会 講話
演説 開会

来十一月一日午後二時於門前町西別院

講師 赤松連城師

大谷派中学寮〔明治28年10月28日 第三八三号〕

当市下茶屋町に設立の同学寮にては、今回従来の上学年級を一年増加し四年級とし、本年十二月迄は入学を許可せらるゝ由。因に他の学寮に許可なき右の四年級増設に至りし始末を聞くに、過般本山の視学稲葉理学士の一行来寮に際し、実跡□験したる上前学年の問題並に所化の動静等優等なれば拙、殊に本山より電報にて四年級増設の許可ありたと云ふ。

総持寺貫主の来名〔明治28年10月28日 第三八三号〕

総持寺貫主の来名は前号に記せし如く、愈々来月下旬当市の万松

寺に着せられ、師団を訪問し死者の追悼会を行はるゝに付、去る廿一日同宗の寺院は、為に宗務支局に参集して協議会を開けり。

広告〔明治28年10月28日 第三八三号〕

来る十一月三日天長節

於菅原町浄教寺午前八時より午後二時まで

両陛下御影参拝

愛知仏教 少年教育会

臨時招魂祭の読経〔明治28年11月4日 第三八四号〕

例年の如く、愛知仏教会にては招魂祭場に於て各宗の読経を為さんとて、去る一日裏門前町の総見寺に取締の集会を催され、理事河村文六氏及び編者も出席し協議の末、別項広告の如く各宗より出席する事となりしが、凡そ其の人数は八百名に近く、特に臨済宗の前管長も臨場あるべく、又第三師団付たりし従軍僧は、公衆に対し一場の演説ある由。

赤松連城師の来名〔明治28年11月4日 第三八四号〕

同氏は去る一日、尚徳会の為に来名の上西別院に於て法話ありしが、同会に曾て記せし如く毎月同師を請じ法話等を聞く筈にて、本月は全く宗義専要の説教を営まれたり。

病没兵の葬儀〔明治28年11月4日 第三八四号〕

当市葛町永田甚兵衛氏の長男長次郎氏は、本年三月近衛師団に属して金州に渡り後ち、又た台湾に出征後瘴病の襲ふ処となり広島病院へ送還され、此の程病没されしを以て一昨二日午後一時古郷町の敬円寺にて葬儀を執行せり。当日の概況は有志者よりの寄送に係る放鳥、飾花并に大小の旗数旒を以て行列を整へ□て式場に達するや各宗四十余名の僧侶整列の上軍樂隊は最も悲哀なる曲を吹奏せり。最初に愛知県知事代理、柳本市長、仏教会代表早川見竜其の外二三の吊詞終るや殊勝なる誦経の間だに、親戚故旧等の焼香ありて頗る厳肅なり。当日の会葬者は陸軍々人、学校職員、生徒、各宗僧侶、町内の有志等無慮二百余名にて、実に近來の盛葬なりしと云ふ。

曹洞宗両本山貫主の軍隊慰問〔明治28年11月11日 第三八五号〕

同慰問の件に付きては屢々本紙に記せし処なるが、予定の如く両貫主共去る廿五日東京を出発し、越山主は広島、呉、佐世保、熊本、大坂の各隊を慰問せられ、能山主は東京、仙台、名古屋、横須賀の各營を慰問せらるゝ都合に付、当市へは能山主の來錫あるを以て、右に関する諸準備の為に去る七日万松寺内へ同宗の僧侶及信徒は参集せられて種々協議する所ありしが、先づ当市に於ける法要等の次第を聞くに、廿六日午後三時笹島へ管主來着の際は、吉祥講員数千名は一定の徽章を帯び吹貫を立て、歡迎せらるゝ筈、其の他同宗僧侶は悉く同場に迎へ聽て万松寺に入るや逮

夜の施餓鬼あり。翌廿七日は師団及び各隊の慰問あり。廿八日は午後一時より万松寺に於て戦病死者の法要あるべく、其の際は師団將校、死者の遺族並に徳川侯を始め市の名譽職新聞記者等を招かれ折詰の饗応ある由。因に該法要終らば、同宗に名ある問答の式を行はる可しと右に付目下万松寺は大修繕中なり。

曹洞宗戦病死者大追吊会〔明治28年11月25日 第三八七号〕

曹洞宗に於ては大本山総持寺貫首法雲普蓋大禪師、同列永平寺を兼帯一宗を代表し、来る二十八日当市裏門前町万松寺に於て第三師団出征軍人戦病死者の追吊大法会を執行さるゝ趣にて、其の順序の概略は左の如し。

法雲普蓋禪師は、二十六日午後三時二十分名古屋着の列車にて豊橋より來名、直ちに裏門前町の万松寺へ入錫▲二十七日午前中は師団司令部を始め各隊并に病院等を慰問、午後二時追吊大施餓鬼会を執行し、終て大禪師の親教▲二十八日午前十時祝聖及び軍隊健全の祈祷、午後一時軍隊戦病死者精靈献供読経、二時対靈小參の大問答式等あり。又二十八日には徳川侯を始め桂師団長、大迫旅団長其他各將校、高等官、県市會議員、新聞記者、戦病死者遺族数百名を請し淨齋を供せらるゝ筈にて、夫々案内状を発せられたり。尚ほ同宗務局は、去る十九日より常務を廃し右法要の準備中なりと云ふ。

追吊並親教〔明治28年11月25日 第三八七号〕

本月廿五日より廿七日まで、当市浄土宗西山派東部寺院酬恩講に
関し、聯合にて門前町極楽寺に於て西京東山総本山永観堂法主殿
を招し、故北白川宮殿下並戦忠死者追吊法要を営み法主の御親教
ある由。

勅賜法雲普蓋禪師の来錫〔明治28年12月2日 第三八八号〕

曹洞宗両本山にては、其の貫主は互に両山を代表し、全国の各師
団を慰問し且つ戦死者の為に法要を営まるゝ事は屢々能仁に記せ
し処なるが、第三師団は総持寺貫主にて相勤めらるゝ為同禪師に
は、去る廿六日豊橋より別項記載の法要等を終りたる後、午後三
時廿五分着の汽車にて来名せられ、停車場前の丸万方にて小憩せ
らる。此の日は兼て準備ありし吉祥講員、其他には同処に出迎ひ
稍ありて、戦病死者の霊牌（殊に本山にて調製せられし厨子付の
者）を護し、先頭に吉祥講より贈られし白縮緬の大旒旗を立て、
次に旗、霊牌（白丁之れを担ひ吉祥講員服部卯助、笹屋治助の二
氏之れを護す）永安寺、乾徳寺、善篤寺、円通寺、寺院総代、万
松寺、取締、次に貫主（馬車）随行、就梅院、禅芳寺、泰増寺、
永昌院、次に篤志寺院、並に信徒中学林生徒等総計三百余名と共
に車を列ね万松寺に着せられたり。此の夜徳川侯爵には禪師を訪
問ありき、廿七日には午前八時より将校には修証義一部宛、下士
以下には菓子一包宛を携へ各隊を慰問せらるゝ為、砲兵、工兵、
輜重、十九、六の両聯隊、五旅団本部、騎兵、師団司令部病院と

順次に訪問されしが、各隊にては何れも営内に方陣を作られ将校
以下整列して慰問の辞を謹聴せられたり。又旅団本部にては旅団
長親しく禪師に接せられ、師団司令部にては師団長不在に付參謀
将校代て接せられ、尚諸将校相当官より下士に至る迄一同は親し
く禪師の慰問の辞ある為に階上に集まれ、病院にては各室を順
次に病床に就きて慰問せらるゝ等町重此の上も無かりき。当日は
中村元亮は一々先導して紹介の労を取りたり。偕其の日は万松寺
に於て連夜の法要あり。翌日は午後一時より追吊大法要あり。師
団長以下の将校二百余名徳川侯以下県市吏名譽職新聞記者遺族等
合せて六七百名を招き定められたる。法要終りて後折詰の饗応あ
り。吉祥講の斡旋あり、注意周到にして孰れも受招者は満足の意
を表して帰途に就かれたり。又各兵士の参拝者あり。一般の参詣
者には説教あり。未曾有の盛況にて禪師は翌日午前四時万松寺を
発して帰山せらる。

広告〔明治28年12月2日 第三八八号〕

尚徳会講話

来る八日午後一時より於西別院

赤松連城師

永平寺貫主の来名〔明治28年12月9日 第三八九号〕

同管主たる森田悟由禪師には今回軍營の慰問を終り帰京の際、水
野道秀氏の住持たる梅屋町に宿泊されたり。

水野道秀氏の上京〔明治28年12月9日 第三八九号〕

前項記載の如く、永平寺貫主に随伴し各軍營を慰問中なりし同氏は、管主と共に来名されしが、再び上京して来る廿日頃に愈々歸寺せらるゝ筈なり。

根釈迦の遥拝堂〔明治28年12月9日 第三八九号〕

当西春日井郡豊場村常安寺の根釈迦は古来有名の者なるも、僻遠の地に在るを以て信徒の参詣も自由ならざればとて、今回当市下前津の新道に右の遥拝場を設けらるゝ由。

少年教育会〔明治28年12月9日 第三八九号〕

昨日当市菅原町浄教寺に於て吉谷覺寿師臨席少年に対し法話ありしが、来聴者三百名斗りにして午前十一時半に散会せり。

本願寺派法主の来泊〔明治28年12月16日 第三九〇号〕

大谷光尊上人には、曾て上京近衛師団の法会を親修されしが、去る十二日帰山の途次、当市栄町の秋琴楼に一泊されたり。

尚徳会の講話〔明治28年12月16日 第三九〇号〕

去る十三日午後一時より西別院に於て開会せられ、例により赤松連城師は懇なる講話ありたり。

追悼授戒会〔明治28年12月16日 第三九〇号〕

本県丹羽郡布袋町字小折常観寺に於て、名古屋市門前町善篤寺方丈中御甄宗師の西堂にて忠死者追悼の江湖会修行中、檀方信徒の希望により十二月十六日より一週間西堂師の戒師にて授戒会挙行せらるゝ由。元來該寺は尾国六地藏の一即ち御釜地藏尊の靈利なれば、界限其名を知らざる者なし。随て化縁も広ければ既に戒師の善男善女も続々申込ある由。

仏教会支部の演説〔明治28年12月16日 第三九〇号〕

当市五平蔵町の大谷派興西寺内に設立せる愛知仏教会支部にては本日午後六時より、早川見竜氏が出席して例月定期の仏教演説を開筵、又た花車町の光明院に設けたる吉祥講第八号支部にては、来る十八日午後二時より早川氏の説教を催す予定なりと。

真言宗の追吊会〔明治28年12月16日 第三九〇号〕

当市七ツ寺に於て、来る十九日は孔瓦塞劇戦の当日なればとて、同宗管長臨場の大追吊法会を行はるゝ由。因に当日は遺族及び師団将校を招待さるゝ為め目下準備中なり。

真言宗の追吊会〔明治28年12月23日 第三九一号〕

去る十九日は、前年缸瓦塞劇戦の当日なりしを以て、当県下の同宗寺院は一大追吊法会を七ツ寺に於て行はれたり。当日は第三師団付の各将校には、師団長参謀長其の他数十名市の紳商県吏等の

参拝ありし。又導師として東寺の鼎長老来名せられ、同県下の同宗寺院は悉く参集せられ頗る町重なる法会ありし、了て大須宝生院に於て将校其の他へ饗応ありたり。当日は殊に遺族の参詣夥しかり。

愛知吉祥講と秋葉例祭〔明治29年1月1日 第三九二号〕

当市大曾根町の関貞寺内に設立せる愛知吉祥講第九号支部にては、本日午後一時より幹事の諸寺院惣出席にて宗祖承陽大師の報恩諷経を行ひ、尚ほ全寺の境内に鎮守として祭りたる例祭を修し、夫れより全講布教師早川見竜氏の説教を催す筈なりと云ふ。

曹洞宗中学林の拝賀式〔明治29年1月1日 第三九二号〕

当市布ヶ池町の全宗中学林にては、本日未明より殿鐘三会を相図に職員生徒一同講堂に整列し、教授山田祖学氏の導師にて大悲神呪を誦誦し、皇帝陛下の聖体万安を祈りて普通朝課二経を修し、最後に早川氏教育の勅語を捧読し生徒一同天皇陛下万歳、仏教万歳を三呼せりと云ふ。

仏教少年教会の演説〔明治29年1月1日 第三九二号〕

当市蒲焼町の真光寺内に設けられたる全教会にては、来る五日午前八時より定期の例会を開き、夫れより早川見竜、橋秀円両氏の仏教的徳育演説会を催す筈なりと。

吉祥講東部の説教〔明治29年1月6日 第三九三号〕

来る十日、当市吉祥講東部なる松山町就梅院に於て、宇治興聖寺の西野石梁氏を請し、午後一時より説教を催さるゝ由。

各地布教彙報〔明治29年1月6日 第三九三号〕

当市七小町曹洞宗普蔵寺に於て、本月七日午後一時より同宗吉祥講第二号支部の定期教会にて大般若経を転読し、続て早川見竜、水野道秀二氏の演説を催す由▲本県東春日井郡和爾良村臨濟宗泰岳寺にては、来る八日午後一時より出征戦死者の大追吊法会を修し、続て水野道秀氏の演説を催す筈▲同郡神阪村曹洞宗観音寺にて、九日午後一時より忠死者の大追法会を営み、続て水野氏の演説を催さるゝ筈▲三河国西加茂郡拳母町曹洞宗神竜寺にて、来る十五、十六両日出征忠死者の大追吊法会及帰郷軍人の慰労会を催し、両日共午後一時より軍事拡張の大演説を催さるゝ筈にて、社員水野氏が出席する筈なりといふ。

名古屋仏教図書館の設立〔明治29年1月13日 第三九四号〕

仏籍は浩瀚なり、悉く之れを涉猟せんには短日月の及ぶ所に非ず。況んや之れを坐右に供へんとするをや。然れども之れが講究に従事せんとする者は、必ず之れを閲するの勇なかる可らず。然るに世間往々其の志あるも之れを購ふ資なきに苦しむ者あり。然るに、寺院若くは其他にして、筐底に蠹魚の食餌に委せらるゝもの少なしとせず。吾人は之れ等を集め、適當の法を設け、仏教

図書館を開き、一は薄資者の便に供すると、一は不用を有用に変ずるの益あるを以て、護法の信徒は協力此の美挙を賛せられん事を切望するなり。其の方法の如きは他日之れを發布すべし。

釈尊の遺物を発掘す〔明治29年1月13日 第三九四号〕

盤谷新聞の報ずる所に拠れば、英領印度総督府の宝物取調委員が此程釈尊の涅槃の地なるスワトを経てシトラル地方へ進入せしに、ダルガイと云へる地にて仏陀の遺物に相違なき種々の宝物を蔵せる黄金櫃と紀元前□十年時代の日付を有する古雅なる彫刻物を掘り出せしとなり。

雪安居留錫〔明治29年1月13日 第三九四号〕

八幡円福僧堂には三十名、名古屋徳源僧堂には五十四名の清衆留錫せらるゝ旨各師家より届出でらる。

追吊法会〔明治29年1月13日 第三九四号〕

本月十三日午後一時、当市門前町浄土宗西山派極楽寺に於て陸海軍忠死者の追吊法会を執行し、並に十四日午後放生会を行ひ説教等を行はるゝ由。

高橋順庵君の追吊会〔明治29年1月13日 第三九四号〕

去る十日、本社員は梅屋寺に参集の際種々協議し、来月十一日（紀元節）は同君の一百ヶ日に相当するを以て同日を卜し、一大

追吊会を催し夜に入て仏教演説会を劇場にて開く可き事に決定したり。

愛知仏教会創立の第七週年〔明治29年1月20日 第三九五号〕

愛知仏教会創立の第七週年

指を屈すれば、既に七年の星霜を経ぬ。愛知仏教会が、前途幾多の責任を負ひ、各宗合同の大団体を名古屋市に起し、又各宗よりは、或は管長、或は高德の僧侶を派遣して其の開会式に臨ましめて之れを賛助しき、而して之れが会員たる一万有余の有志諸氏は、互に相担ひ相扶持し、相擁護し、同会の設立主旨をして之れを貫徹せしめん事を仏前に告白せり。之れを明治廿三年の春とす。宜なり同会が、数箇の支部を有し、且又名古屋市中、至る所として、六根色をなせる会員証を門頭に見ざるなきの隆盛を致し、其の結果として、外教は跡を収めて閉息し、各宗は相互に聯合して一致の運動を為し、或は全国仏教者の大会を市下に開き、或は奠都祭を協賛して桓武帝忌を修行する等、仏教徒としての、最大優勢を含めるは全国に於ても凡そ比無る可し。故に他県の信徒は、皆愛知仏教会に其の整備と其の強力を羨まざるなし。之れ豈に愛知信徒の名譽ならずや。故に此の名譽を担へる愛知仏徒は、七周年余を経過し、倍々経験を積み信用を博したる仏教会をして、更に光輝ある活動を為さしめ、其の責任を尽さしめて、開會初旨に戻らざらしめん事を力なるは、一に会員其の人と之れが路に当る有志なる可し。然るを然らずして、或は倦怠の色を顕

し、或は初志に戻るあらば、之れ仏陀を欺く者なり。良心に背く者なり。豈に一鞭を加へざるを得んや。

吾人今此の第七週年の初春に遇ふ。故を以て一辞の之れを質し、且つ之れを誠しむる誠と致す所以なり。謹で以て之れを白す。

飯田道一氏渡天に決す〔明治29年1月20日 第三九五号〕

曾て当市内に梅干の勧募を為して陸海軍へ五十樽といふ数を納められし同氏は、前年来渡天の志願ありしが愈々諸準備も整ひたるを以て、一先上京して外国旅行の免状を受け、来月初旬再び来名して高橋順庵氏の追吊会に会し、同夜の演説会にも望み、其の上にて西京に赴き、神戸に於て乗船を為しコロンボに向け出発の予定なりと云ふ。尚同氏渡天に付ては夫々篤志家の寄付金もありしが、右は取り纏め得る限りは為替にて携帯し、尚遠隔地方の残余の分は愛知仏教会の会計河村文六氏に托し、逐々送金せらるゝ事にせられたりといふ。

名古屋市中行事〔明治29年1月20日 第三九五号〕

左の一篇は誰の作なるを知らず。然れども既往三十年以前の著なるを知る故に、往々今日既に退転し、或は目今の行事の漏たる者あれども温故知新の一助にもと左に月を追ふて記載すべし。

○正月

正月元日 年始御礼御家中年首御祝儀の登城御盃頂戴東照宮御宮に元旦法楽各家歳首恒例賀儀万歳春駒鳥追福俵懸想文

大黒舞猿曳是等の外、府下の乞児等種々の祝辞を諷ふて戸々来る。

○二日 御対面所出所大広間諸御同心御礼御盃頂戴御廊下通町人御通御目見商家売初め売出し。

○三日 御謡初め御郭内天主社五穀成就祭御宮天長山神宮寺慈恵慈眼両大師会

○四日 御殿中料理初

○五日 建中寺御仏参（或は名代）

○六日 寺社御礼

○七日 七種御祝御諸士御登城家々蕎粥を調して喰ふ

○八日 東寺町法花寺説法初同町寿元寺毘沙門天祭（正五九月同）

○九日 夜山王社内恵比須社神楽明日初市

○十日 山王恵比須社初市（大坂今宮の恵比須をうつして種々の宝物を笹につけて商ふ）又神の小像を庶人に与ふ

○十一日 御具足の御祝並に御馬乗始丸の内追廻の馬場にて執行あり

○十二日 東寺町御堂照遠寺祖師日蓮大士参詣（西の刻迄庶人群集す）

○十三日 南寺町政秀寺平手政秀の忌日

○十四日 東天道町天道祭琵琶島川に左儀長あり

○十五日 小豆粥を祝ふ日置八幡宮湯立広小路神明宮湯立東寺町妙見菩薩祭古渡闇の森八幡宮祭

○十六日 若宮八幡宮湯立

○十八日 大須初観音

○十九日 新町大光寺七面祭

○廿日 蛭子社参り（府下の商人清寿院、或は甚目寺にて画像を迎へ）

○廿二日 広井浅間社湯立東寺町法輪寺稻荷祭

○廿四日 広井水車福天大権現法楽東天道町天楽祭西山派門中法然上人御忌速夜執行音楽法会あり

○廿五日 建中寺御忌鎮西派門中御忌南寺町極楽寺御忌巾下上宿天神祭大山児権現祭古渡榊森祭

○廿六日 前津田面廿六夜待（此夜月出三尊の形に拝すると群集す）

○廿八日 上島裏円頓寺鬼子母神祭

○廿九日 鍋屋町下情妙寺鬼子母神祭

○晦日 荒神祭（毎月或は正五九月に戸々に是を祭る神司も又祭る）

仏教会支部の演説〔明治29年1月20日 第三九五号〕

当市五平蔵町の興西寺内に設立せる愛知仏教会支部に於ては、去る十六日午後六時より、早川見竜氏が出席して定期の演説を催されしが、聴衆は頗る感動を惹起せしと。又花車町の光明院に設けし吉祥講第八号支部にては、一昨十八日組合の諸寺院出席して宗祖承陽大師の報恩会を営み、次で早川氏の説教を開筵せりと云

ふ。

尾州愛知郡の葬儀〔明治29年1月20日 第三九五号〕

田代村出身の近衛歩兵第三聯隊第五中隊一等卒水野鎌治郎氏は、渡台従軍中の処一朝病に罹り、台地野戦病院に於て終に不帰の客と被成しに付、本月廿二日午後二時より同村曹洞宗松林寺に於て、大導師山主水野雷幢師、奠茶師光正院住職玉井経円師、奠湯師桃岩寺住職織田良宗師等にて頗る盛大なる葬儀を営まんとす。目今準備中の由。

西川氏母堂の葬儀〔明治29年1月27日 第三九六号〕

株式取引所理事西川宇吉郎氏の母堂（七十五年）には、久しく病床にあられし由なるが去廿一日逝去せられ、全廿三日南鍛冶屋町の自宅より出棺、門前町大光院にて葬儀を執行せられたり。全葬儀には愛知仏教会よりは広間隆円氏が代表出席せられ、全会の仏旗を翻す。三重紡績会社、名古屋株式取引所等よりは大花籠、其他柳本市長、奥田理事長、及び名古屋株式仲買人諸氏より数十対の生花を寄贈せられ、葬式場へは曹洞宗竜潭寺住大導師、協導師空雲寺、養昌寺の三導師にて、会葬寺院には大光院、安斎院、長松院、梅屋寺、大運寺、就梅院、禪芳寺、関貞寺、威音院、永昌院、及吉祥講幹事出席せられ、一般会葬者には柳本市長、奥田理事長、市吏員、市会及参事会員銀行諸会社役員無慮二千余名と見受けり。右葬儀を了り、夫より愛知県御厨村竜潭寺埋葬せられた

り。亦同日は愛知育児院の余児十余名及役員数十名会葬送られたり。

愛知吉祥講の總會 (明治29年1月27日 第三九六号)

曹洞宗の檀信徒より組織されたる愛知吉祥講は遂日盛大に赴く有様なるが、去る廿四日午前十時より幹事の諸寺院其他世話人等二百余名は其本部なる門前町の大光院に総集會を催せり。当日は幹事長竜桑巖師の導師にて両祖真前へ報恩の読経を行ひ終て水野道秀氏を議長に推し、廿八年度に於ける布教上の成績金銭出納の決算報告あり。夫れより将来の方針を議定し、尚ほ早川見竜氏は講務拡張に関する一場の演説をなして各退散したるは午後三時頃なりし。

曹洞宗中学校 (明治29年1月27日 第三九六号)

当市布ヶ池町の中学校にては、客臘改正教育令の發布ありてより生徒の員数頗る増加せしを以て、来る廿九日より第一回の学期試験を行ひ、夫れより暫時冬期休林をなし、来る三月上旬よりは役員を増聘し専ら新教育令に依準し着々後進の僧侶を策励するの予定なりと。

早川氏の施本 (明治29年1月27日 第三九六号)

吉祥講の布教信徒接引に従事しつゝある早川見竜氏は、法の礎と云へる小冊子を著し、一般の教徒に施与せんとて此程中市内の有

力なる篤志家より淨財を募集し居られしが、頗る好結果を得たるが為め、近日の中には印刷に取掛る筈なりと。

赤松連城師の来名 (明治29年1月27日 第三九六号)

同師には昨日来名西別院に於て、例月の尚徳會の法話を為し、夜に入て同會員の催に係る新年宴會に臨まれ、今朝出発帰西せらる。

名古屋市中行事 (明治29年2月3日 第三九七号)

名古屋市中行事 (承前)

二月

○初午日 所々稻荷社参詣、御家中屋敷を初め所々稻荷社に五采

の幟を樹て、之を祭る、古渡新宮稻荷 (山王) 万松寺

白雪稻荷 (於小女郎) 等尤も群集す

○初未日 古渡閻烏森祭

○春彼岸 寺々に説法あり、中日建中寺楼門開本願寺東西掛所参詣多し

詣多し

○朔日 大曾根了義院妙見祭 (春秋両度八月朔日)

○二日 家僕出入交代

○七日 巾下山の神祭り

○十五日 広井八幡宮的射神事建中寺山門参詣 (彼岸中日同じ)、

諸寺涅槃會浄土宗 (鎮西西山)

○廿二日 七ツ寺境内聖徳太子法會

○廿四日 桜の町靈岳院天満宮大般若転読
○廿五日 同天満宮開扉

此日同所にて靈宝数品を拝せしむ、遠近の寺子連中競ふて絵馬を献じ飾る、又東山在家より植木を出して本町筋に商ふ、其景恰も山林の如し
七尾天神々楽末広町天満宮開扉

仏教少年教育会〔明治29年2月3日 第三九七号〕

当市蒲焼町真光寺内の全会にては、昨日午前八時より早川見竜氏が出席して少年の徳育に関する一場の演説をなし、尚ほ定期会をも開きしが十二ヶ月間一度も欠席せざる会員には、幹事の評決に由て一等より三等迄の賞品を与ふる予定なりと云ふ。

特別広告〔明治29年2月10日 第三九八号〕

来ル三月一日入仏供養、翌二日ヨリ八日迄授戒会修行
戒師 前可睡齋方丈
西有穆山老師
門前町
陽秀院執事

追吊授戒会〔明治29年2月10日 第三九八号〕

当市東瓦町曹洞宗威音院に於て、来る三月六日より一週間戦死病没者追吊授戒会を執行せらるゝ由にて、全戒師には全宗大本山永

平寺監院鷹林冷生師を請し、説教師には有名なる小寺黙音氏を聘せらるゝ筈なりと云ふ。

鷹林冷生氏の来名〔明治29年2月10日 第三九八号〕

越前永平寺の監院なる同氏は近々来名の筈に付、愛知吉祥講にては来月一日春期大法会を修し、氏を請して説教を催さるゝ由。

特別広告〔明治29年2月17日 第三九九号〕

来ル三月一日入仏供養、翌二日ヨリ八日迄授戒会修行
戒師 前可睡齋方丈
西有穆山老師
門前町
陽秀院執事

竜桑巖師の題詩〔明治29年2月17日 第三九九号〕

愛知吉祥講の幹事長の竜桑巖師は、早川氏の施与せらるゝ法の礎の巻首に題せんとて、此程左の詩を賦して与へられしと、
高祖親言皆勿逆 殷勤為勸誦朝夕
有因有果露堂々 種菽何田得生麦

赤松連城師の来名〔明治29年2月17日 第三九九号〕

尚徳会の為めに昨日来名、西別院に於て講話あり。本日帰西されたり。

特別広告〔明治29年2月24日 第四〇〇号〕

来る廿四日午後一時より門前町大光院に於て

釈守愚師出席 印度宗教の実況演説、並に印度希有の仏像、バ
イタラ葉等の内拝を為す。仍て此段会員諸氏に
告ぐ。

愛知仏教会

特別広告〔明治29年2月24日 第四〇〇号〕

来ル三月一日入仏供養、翌二日ヨリ八日迄授戒会修行

戒師 前可睡齋方丈

西有穆山老師

門前町

陽秀院執事

愛知仏教会の春期大演説〔明治29年2月24日 第四〇〇号〕

別項特別広告の如く、本日午後一時より大光院に於て久しく印度
に在りサンスクリット語を研究し、兼ねて仏跡巡拝の偉業ありし
釈守愚氏を聘し、春期の演説を開会し尚釈氏が印度に於て発見さ
れし希代の仏像を内拝せしめらるゝ由。其の詳況は次号に報すべ
し。

特別広告〔明治29年3月2日 第四〇一号〕

三月六日ヨリ 授戒会執行
十二日マデ

戒師 大本山永
平寺監院 鷹林冷生老師

東瓦町 威 音 院

特別広告〔明治29年3月2日 第四〇一号〕

来ル三月一日入仏供養、翌二日ヨリ八日迄授戒会修行

戒師 前可睡齋方丈

西有穆山老師

門前町

陽秀院執事

愛知仏教会の春期演説〔明治29年3月2日 第四〇一号〕

去る廿四日門前町大光院に於て開会したる同演説は、今回印度よ
り帰提されし臨濟宗釈守愚氏を聘し、印度現今の仏教実況の談話
を乞ひたる事なれば、聴衆も非常に多く殆んど宏大なる同院も立
錫の余地なきが如き有様なり。偕初めに水野道秀氏は、開会の主
意として愛知仏教会が運動上の事より説き起し倍々相互に将来を
期し提携して大法を護持せざる可らざる事に及ばれたり。次に釈
氏は印度現今仏教の衰頹を歎き、之れを挽回するには我が戦勝国
たる日本人民の尽力による事より仏教参拝の事に及び、第二席に
於て印度所感として同地が英政府の下に立ちたる以来の状況を悲
壮的に述べられ満場をして肅として謹聴せしめられたり。尚同時
に釈氏が印度に於て仏滅後阿育王時代に造られたる仏像を内拝せ

しめられしが、是亦珍品なるなり。拝覧者非常に混雑し、一時は制裁も付き兼ねたる次第なりしが、無事午後五時頃閉会したり。

愛知県曹洞宗中学林は自然消滅〔明治29年3月2日 第四〇一号〕

咄々怪事生徒も知らず教員も知らず監理も知らず学監も知らず、知る者は二三の〇物、今に通達を受けざる生徒等の去就を加奈にする、孰か正義を唱へて此の不幸者を救済する者ぞ、吾人は其の人を待つ、否大に将来に向ひ愛知県曹洞宗当事者に望み且つ求むる所あらん。而して是等不幸の諸氏の為に堂々將に其の路に訴ふる所ある可し。其の結果は必ず次号に於て報ずる得ん。

承陽大師御旧跡再興主唱者〔明治29年3月2日 第四〇一号〕

本紙に報告せし承陽大師御旧跡吉峰古精舎再興主唱者たる田中仏心氏は、護法の精神より再興事務に尽力せられしが、今回越大本山監院鷹林冷生老宗師は名古屋及び近在地方等に於て数ヶ所授戒会の戒師の請に応じ巡教に付、全氏は随行旁々尾三両国地方諸寺院及び信徒へ、大師御旧跡再興淨財募集の爲め発足せられたりと。希くは高祖報恩の為に応分寄付せられんことを。

片端説教場の軍人説教〔明治29年3月2日 第四〇一号〕

当市東片端町真宗大谷派説教場にては、過日東京よりは真宗記者を始め当市光円寺の住職等を招き、軍人の為に説教を行はれしが、爾來は時々同様開筵さるゝ筈なりと云。

薄者へ恵与〔明治29年3月9日 第四〇二号〕

当市納屋町岡田伊助氏は、前号に記したる三河の薄命者榊原きんへ金若干を本社へ托し恵与されたり。

建言書〔明治29年3月9日 第四〇二号〕

左の一篇は愛知県曹洞宗学林の閉林に就き、生徒の不幸を慙み宗局に向ひ事実を建言し、兼ねて有志家へ配付したる者なり。

建言書
中村元亮

愛知県曹洞宗中学林は、其の創立稍久しと雖も、近くは尾濃震災の後に一回閉林の止むを得ざるに至り。其の後僅かに宗余乗のみを授くる事として開林し、又一昨年秋に至り之れを拡張し、同宗の教育令に基き普通学をも併せ教ふる事となれり。然れども同学期は久しく欠きたる普通学を再興せし事として、課業の順序相整はず。為に充分なる効果を奏する事能はざりき。其の年の夏に至り、万松寺中に在りし旧学林は寺主の請求により転校せざるを得ざるに至りたり。然るに此の転校の事之れを夏期の休業間に行はれしならば幸なりしに、休業後將に始業せんとする時に当り、更に移転の為に二ヶ月間の休業をせざるに至りたり。此の時に当り稍教育に心ありし者は、皆曰く転校の為に学業を欠くは宜しきに非ず。他に相当の寺院、若くは禅堂又は屋舎を借りて、移転建築中は夫れにて授業すべし。殊に或人の如きは宗内某寺に旧某校の

空教場あり。之れを借りて移らば暫の事なり。更に雑作なしと謂ひたる者さへありき。然れども此の議遂に行はれず。空しく移転の為に二ヶ月余の休業を為し、而して開林の運びに至らんとせし頃、恰も内務大臣が神仏各派に下したる教育奨励の訓令により修学の必要を感じたりけん。俄かに生徒が増加するに至りしのみならず、曹洞宗教育令なる者が発布せられ一層校規を宏にするの幸運に向ひたり時に、慣例により去る二月を以て冬期試験を了り、各学生は各々旧正月を以て帰寺せしめ、次の学期始業を予め三月七日、若くは十日と定められたり。爰に同林教授早川見竜氏、二月廿四日偶々事あり。宗務支局に至りしに、局員との話次学林の事に及びしに、学林は同日に開きたる会議の決議に於て自然消滅なる宣告を受けて無限閉校（再び議會を開きたる決議迄）なりと謂ふ事に及びたりと、氏愕然直ちに不肖を訪ひ、事の始末の告げらる不肖聞き了て是れ必究戯れなる可し。併し然らんも斗られざれば急ぎ監理を訪ひ事の実否を査し、若し実ならば其の処置の穩かならざるを支局に詰問し生徒及び教員に満足なる答弁を与へられん事を委言したりき、氏翌日を以て監理を訪ひしに、監理は何事なるを知らざるも今日支局の招あり將に赴かんとすと云ふに会せしを以て告ぐるに、事の始末を以てせられしに監理も驚き、蓋し其事ならん予は斯る事ならば赴かざる可しと決然袖を払ひ去られんとす。時に早川氏曰く併し事の処置を全くするは其の職なる可し。今や開林を約したる日は二週を出でざるに、然るに学林にして果して消滅したりとせば、之れを生徒にも告げ又教員の解備

等最も必要なる可し。監理にして今日赴かずんば却て徒らに時日を遷延せんと、其の日又早川氏は学監水野雷幢氏に会す。水野氏も亦其の消滅の事を知らず、直ちに支局に赴き之れを局員に聞く可きを以てせられりと、以上は早川氏直話の大要なり。其翌廿六日雷幢氏予を訪ひ告ぐるに、学林消滅の事を以てす。予茲に於て二三弁論せし事ありしも、要するに氏は単に支局員の命を帯びて来る者なり。故に予は直ちに車を馳せて支局を訪ふに、一人もあらず唯学林に関する照会の為に曾て議に預りたる議長田中某氏は豊橋に赴き、又支局取締も貫主を迎へるが為に赴きたりと聞き、予は急に汽車に乗じ豊橋に赴き、殊に来豊中は永平禪師にその始末を言上し、同夜田中某に面会し事の次第を聞きぬ、田中氏曰く今回閉林の事たる教育令の改正により旧来第一号支局下にありし幡豆額田の二郡は、第二号下に付きたり。右に付将来の林費徴集の予算に於て変更を来たせり。仍て次期集金の予算編製に迫り閉林の止むを得ざるに至りたり。故に拙者は三河の二郡か去就を確むる為に交渉に來れり。其の結果により議會を招集し、又其の結果により再び開林の否を定むべし云々。以上は其大要なりと雖も、今回の閉林に関する原由は之れに止る者にして他に基く所なきが如し。予は話次懇に教育の要点教員待遇の事を説明（後に記す可し）。翌未明帰名し、更に支局を訪ひしに、此は日曜休日なるを以て正副取締の宅を訪ひ、或は其の次第を聞き、或は愚見を語る事田中氏に於けると同じ。又此の日、幸に現管長能山執事石川素童氏の來名に遇ひ、氏に面し、尚ほ其の意見を聞き、予が持

論を述べたり。

予が持論

今回の閉林は、全然支局員が教育に不熱心なると生徒并に職員に不親切口礼を欠き殊に生徒を愛護するの念更になきに由る。初め新教育令の出づるや、或は方針等に変動を来さん事を慮に殊に新令実施の日と旧令消滅の日との限界に於ける方針如何を照会せしに、支局は明に同方針異名称にて継続する者なりと答へたり。(石川氏の意見も同じ) 故に職員は勿論、生徒に至る迄一人として学令改正の為に閉林等の事あるを知らざりしは勿論、斯る不意の出来事を予知したる者も非ざりき。然るに之れを田中氏に聞くも、次年度の予算を編製するに当り、初めて額田幡豆二郡の分割に心付き、斯くては学林費徴集にも付加法を変ぜざるを得ざれば議会の承認をも経ざるを得ずとて、先づ議会招集の上にて其の決議を見る迄は閉林すべしと、去る廿四日の支局会議にて決したる者なりと云ふ。

既に述べし如く、今回の閉林は全く支局員が怠慢の是れ由る者に於て、即ち予算編製の時自己の落度より差問の生じたるを發見し為めに閉林といふ一門を開きたるなり。抑も此の二郡分割新令改正の如きは、今日に突然にして起りたるに非ず。既に去年九月來の事なれば、林費徴収上予算を変更せざる可らざるは了然たる事なれば、若し局員にして少しく心を生徒の教養に存じなば、必ずや学令改正の時に於て開林の方法を設け、突然閉林等を為すが如き不幸あらざりしなる可し聞くが如くんば二郡の總代は殊に分割

の件に付き打ち合せの為に支局に出頭せしに、局員の答弁甚だ冷淡なりし為、現に今回の交渉は難事なる可しと田中氏は豊橋にて語りたり。

故に予は、既往のことは咎むるも益なきも、将来に於ける曹洞宗の学林を思ひ、茲に左の件を建言す。

第一 教育なる者は、他の事業と異り一日之れを苟もせは再び追及し得可き者に非ず。換言せば継続事業にして、若し之れ中斷せば更に初に復すといふが如し。古語に「学問は坂に車を推す如し、油断をすれば元に回ると」、予が親しく昨年来学林に於ける成績を見るに、夏期休暇に引き続き移転休業を為す。尚僅かに二ヶ月授業して又閉林すといふが如き有様なれば、過去の成績は殆んど皆無にして、生徒をして徒らに費用と時日を空しくせしめ、派内寺院をして不要の林費を出さしめたる者なり。而して斯の如き失体は悉く当局者其の者の責なれば其の責任を明かにすること。

第二 今回の閉林は、支局員が専断横恣の振舞なること如何となれば、既に本年三月迄の林費は去歲の議会上に於て決議したる者なれば、三月以前に閉林するの理なし。況んや或る地方の如きは既に二十九年年度の林費さへ徴収せられたる者ありと、然れば今月俄に閉林せずんば能はずといふの理なき事是れなり。故に之れを局員の横恣専断といふなり。

結 論

既に述べし如く、教育事業は他の事業と異にして中途に廃絶断滅

等のことある可き者に非ず。然るを区々たる故障の爲め、又は僅少の経費の爲に其の断滅の屢々なること前年来の如くにして、更に其の効果を収むること能はざる者ならば、生徒をして空しく歲月を費し無用の失費を為さしめ、又且寺院に不用の賦課を蒙らしめずして可なり聞くが如くんば、昨年の移転休校の際の如きも寺院へは等しく林費を出さしめたり。故に或る人の如きは、必究休林は之れ生徒の食費を握り潰したるなりと。予は是等のことは堅く信ぜざれども、今回も亦已に歳費に決議を経、未だ其の資金の存ずる年度以内にて閉林等を為すが如きことあるは、或は某人の言をして世に益々信ぜしめ爲に局員其の人の信用にも関するといふなり。

要するに、尚教員を待遇するに於ても突然として学監来り、申和解なきも学林は消滅なりと申し升故、再び御依頼は致すべきも一先御解き申す云々の如きは何事ぞや、之れを少しく心ある者の爲す可きこととするが、況んや道徳を主とする宗教家に於てをや、曹洞宗将来の人物を養成すといふ学林にして以上の如し。同宗の寺院檀信徒は果して如何する。予は此の言を建つるも固より、無効に属するを知るなれども生徒の不幸を愍み、且将来曹洞宗なる者の教育方針を思へば止まんと欲して止む能はず故に、東西に奔走し有志を説き告ぐるに事実を以てし、尚ほ一篇を草して宗務局に上る。

明治廿九年三月

尾張中学寮の園遊会〔明治29年3月9日 第四〇二号〕

下茶屋町の同校にては、一昨所化の催しにて別院の庭園に於て大園遊会を催せり。

威音院の授戒会〔明治29年3月9日 第四〇二号〕

目下開戒の同会は、戒弟頗る多く、日々非常の賑合なり。

教育会の追吊〔明治29年3月9日 第四〇二号〕

昨日当市の梅屋寺に於て、台湾に於て非命の死を遂げたる教育者の爲に追吊を行はれたり。

広告〔明治29年3月9日 第四〇二号〕

三月六日ヨリ 授戒会執行
十二日マデ

戒師 大本山永
平寺監院 鷹林冷生老師

東瓦町 威音院

万松寺稻荷の開扉〔明治29年3月16日 第四〇三号〕

有名なる同稻荷は、今回同寺の正門前に移転遷座ありしを以て、来る十七日より七日間開扉を行ふと。

大般若繙供養〔明治29年3月16日 第四〇三号〕

名古屋市松山町曹洞宗含笑寺住職織田宗格氏は、過般来征清軍凱

旋紀念の爲め大般若經六百卷を勸請せんことを発願せられし処、檀徒及び信徒の賛成するもの多く、此程全部六百卷を講求し、来る十八日初午の日を以て寺内吒枳尼天の祭典を兼ね午後一時より大般若繙供養し、野々部至遊師の説教ありと云ふ。

安齋院の祝会〔明治29年3月23日 第四〇四号〕

当市松山町の同寺にては、現任職野々部師就職以来、常に雲柄を置き弁道修行せしめられしより、今回本山は同寺に対し公然僧堂の認可を与へられ、又寺格を常恒会といふに昇進されし祝を兼ね、来月四日「両陛下宝祚長久の祈祷を行はるゝ由定めて盛会なる可し。

南条文雄師の来名〔明治29年3月23日 第四〇四号〕

一昨日来名せられ、東別院の特別教会并に少年教育会其他に臨まれたり。

朝鮮行の鬼子母神〔明治29年3月30日 第四〇五号〕

当市桜町本遠寺別院に於ては、中山鬼子母尊神を朝鮮仁川へ奉送の披露として、来る四月一日より五日間日宗海外宣教会々長僧正旭日苗師之れが説教を勤めらるゝ由。

故石蘭翁の追薦会〔明治29年3月30日 第四〇五号〕

故奥村石蘭翁が没後一週年忌に相当するを以て、男石亭氏が催主

となり社中門第一同幹事となり、同好社中重立し画伯が補助となり、祥月命日の当日当市門前町極楽寺にて追善の大法会を営まれる由なる。その計画は煎抹の呈茶及び故翁の遺墨流祖の古画幅初め各画伯の絹本の展観、又た席上揮毫を為し、頗る盛大に追薦を開かんの評議一決にて、既に他府県の画伯等へも夫々通報せり。

何地も同じ〔明治29年3月30日 第四〇五号〕

当市の曹洞宗学林のみならず、也滋賀県下曹洞宗派末寺の發起にて宗弊洗滌の第一着手として、美濃飛騨若狭の三ヶ国と聯合し曹洞宗中学林を新設せんと予て計画をなし居りしが、愈よ右三ヶ国全宗務支局取締へ交渉の上、彦根に設置することに協議纏りたる由。

安齋院の祝会〔明治29年4月6日 第四〇六号〕

同寺が常恒会に寺班を進められ、又公認僧堂の許可ありて祝会を昨日開かれしが、当日招待を受けたるは三千余名にて、為に隣寺梅屋寺をも借り受け頗る町重の饗応あり。又午前十時より交々説教の催しあり。午後二時よりは出班焼香にて祝聖回向、観音経遊行諷誦にて祈祷回向あり。了て大導師三帰戒授与にて盛大なる祝式なりき。尚同寺には門頭に当日より認可僧堂の高札を建てられたり。

長松院の法会〔明治29年4月6日 第四〇六号〕

上前津町長松院には、従来毎月十日に法脈会説教ありしが、本月より更に改正して七ヶ月を以て満会とし、以後は毎月十日に日供講施餓鬼を、又毎月廿四日に地藏講を営み、両度共説教等を営ま
る、由。

少年教会の演説〔明治29年4月6日 第四〇六号〕

当市蒲焼町の真光寺内に設けたる愛知仏教少年教育会にては、昨五日午前八時より例月の定期会を開き、早川見竜、橘秀円の両氏
が出席して少年の徳育に関する一場の演説ありし由。

大運寺の曹洞教会〔明治29年4月6日 第四〇六号〕

当市白川町の大運寺に設置せる全教会にては、来る十日午後二時より早川氏
が出席して修証義の講話を開かる、予定なりと。

授戒会〔明治29年4月6日 第四〇六号〕

西春日井郡青山村正法寺に於て、四月七日より一周間大本山永平寺執事鷹林冷生師を戒師に、近藤疎賢師を説教師に請し、久国寺安居の雲衲廿八名を随喜せしめ授戒会を修行する由。

関貞寺の授戒〔明治29年4月6日 第四〇六号〕

当市大曾根の同寺にては、五月二十三日より永平寺貫主を請し七日間授戒会を修せらる、由。

羅漢供養と説教〔明治29年4月13日 第四〇七号〕

尾州愛知郡田代村曹洞宗松林寺に於て、本月十五日午後一時より組合寺院十余名を請し、例年の羅漢供養を営み、続て廿七八年の役戦病死者の追吊法会を執行せられ、了て水野雷幢氏の説教ある
筈なりといふ。

吉祥講の例会〔明治29年4月13日 第四〇七号〕

当市矢場町の万年寺内に設けられたる全講の支部に於ては、昨日午後一時より幹事の諸寺院惣出席にて承陽大師の報恩会を修行し、夫より大施餓鬼会を営みて講員の先亡諸霊を廻向し、尚ほ早川見竜氏の法話ありたる由。

少年会の運動会〔明治29年4月13日 第四〇七号〕

蒲焼町の真光寺に設立せる愛知仏教少年教育会にては、昨十二日当市東郊八幡山にて春期運動会を催せしが、今ま其概況を記さば、当日は二百余名の会員は午前八時を期して其本部なる真光寺に集り、行厨の用意を整へ六根色の仏旗を押立て数名の幹事一号令の下に隊伍整々たる会員を引率し予定の順路を経て聴て八幡山付近に達するや、先づ全村の曹洞宗竜光寺を休息所に充て午餐を終り、夫より一隊を二組に分ち旗取り綱曳き球投げ等数番の運動を試み、優等者には夫々賞品を与て最後に 天皇陛下万歳、仏教万歳を三唱して無事帰途に就きしは、午後三時頃なりしといふ。

恒忌法会と吉祥講〔明治29年4月20日 第四〇八号〕

当市七小町の曹洞宗普蔵寺に於ては、昨十九日午後一時より例年恒忌の羅漢供養法式を営みしが、今まその景況を記さば、先づ山門頭には仏旗を交叉し、本堂の内外は幔幕を以て最も厳肅に莊飾し、須弥壇上諸般の献供品に至る迄で、準備おさ／＼怠りなかりしかは、聽て予定の時刻に達するや宝鐘三会を合図に、組合寺院及び隨喜の僧侶威儀を具して法堂の式場に整列し、住職高丘大導師の大導師にて全寺秘蔵の十六羅漢供養法会を修行し、夫より早川見竜氏の懇切なる法話もありたる。後ち參聽者一同えは清齋の饗応ありしと。又た熱田町新尾頭の陽泉寺に設立せる吉祥講支部にては、本日午後二時より組合寺院及び全講の世話人惣出席にて、両祖真前え報恩諷經を行ひ、全講員先亡諸靈追福の爲め大施餓鬼会を行ひ終て早川氏の説教を開筵する由。

少年会の演説〔明治29年4月20日 第四〇八号〕

菅原町浄教寺内の愛知仏教少年会にては、昨日午前八時より例会を催し、吉谷覚寿、早川見竜、青木亨元諸氏が出席して徳育上の演説ありしと。

熱田通信〔明治29年4月27日 第四〇九号〕

熱田町円通寺に於ては羽休神殿再建落成に付、予期の如く本月十三日より向ふ三週間、三尺坊大権現を開扉し新たに御眷属七十五神を勧請せられ、信徒一同へ内陣拝礼を許されたり。開扉初日は

県下各郡村講社員陸続群集し、門前境内には数本の大塔婆大幟五十

十余本を立て、球灯千五百余を左右に列ね、神殿正面には有志者の寄付に懸る物品をして莊嚴し、午前十時に至り山主大導師にて寺院雲衲五十余名法鐘奏樂に随ひ上殿し、開扉式七十五神祝膳式及祈禱楞嚴行導等の大法会を営み、引続き講社信徒の祈禱会を修行せられ、午後二時より投餅等の余興ありて非常の盛大なりと云ふ。当日案内状を受け茶菓酒飯の饗応せられしは、凡そ二千余名にて終日大雜沓の由。猶又開扉に付、十方有志者より寄付物品の著しきは七宝焼大灯籠一对（寄付主愛知七宝焼組合中）、唐金大灯籠一对（名古屋盛栄連朝日連各芸妓中）、紫縮緬大幕一張（名古屋廓芸妓連中）、鎮鍬大鉤灯籠一对（名古屋湯屋業組合中）、赤地金欄戸帳一張、全檀打敷五枚、竜紋幔幕一流（伊藤銀行役員中）、竜紋幔幕二流（熱田町岡山新造）、大幟五十本（名古屋廓各町内及外有志者）、赤地金欄大幔幕一流全金欄大打敷二枚（円通寺議員中）、赤球灯千五百張（名古屋廓各楼部屋中）、玄米三俵（名古屋株式仲買中）、其外各郡村講社よりの寄付米等各会所に積み上げ実に近年無比の大盛典なりき。

吉祥講の定期会〔明治29年5月4日 第四一〇号〕

当市宝町の禅芳寺に常設せる吉祥講第三号支部にては、去る廿七日午後二時より各寺院を集め、住職門内大英氏の導師にて両祖真前え報恩諷經を行ひ、講員祖先追福の爲め無縁大施餓鬼を営み、早川氏が一場の法話をなせし由。又た宮出町の広徳寺に於ては、

去る廿八日午後一時より組合の諸寺院を集め、住職安藤玉隆氏の焼香師にて、例寺定期の羅漢供養法会を営み、早川氏の説教を催したる後、吉峰寺再興委員なる田中仏心氏が全寺再興の理由を布演せしかば、一同の参拝者は一方ならぬ感動を惹起せし由、次ぎに愛知郡諸輪村の清安寺に於ては、去る廿九日より本月一日迄三日間春期法会として無縁大施餓鬼会を行ひ、当市の早川見竜氏を招聘して三昼夜間の説教を開筵せりと云ふ。

授戒会と開帳〔明治29年5月4日 第四一〇号〕

愛知郡広路村曹洞宗香積院に於ては、去月廿二日より授戒会を勤められしが、その戒師は大光院住職竜桑顛師にて、説教師は林光院住職山田祖学師にて、戒弟凡三百名なりし。

布教講〔明治29年5月11日 第四一一号〕

当南久屋町誓願寺に於て、来る五月十三日、十四日布教講当番に付、十三日は忠死者大施餓鬼、十四日は放生会並に当日説教を修行する布教師は、熱田宝勝院住職黒川大心師なりと云ふ。

愛知吉祥講の例会〔明治29年5月11日 第四一一号〕

当市矢場丁の万年寺に常設せる愛知吉祥講第六号支部にて、明日二日午後一時より幹事の諸寺院及び全講の世話人等が惣出席の上へ、住職伊藤契禅氏の導師にて両祖真前へ報恩諷經を行ひ、夫れより講員一般祖先追福の爲め大施餓鬼会を修行し、最後に早川氏

が一場の法話をなす由。

大日本施薬院へ寄付〔明治29年5月11日 第四一一号〕

一五円宝〇納、江州長浜吉田治平、当市門前丁西崎十左衛門、三日月賦、込込大須宝生院、〇十銭相生山加藤加兵衛、十銭石丁上野与七、二十銭中市場加藤市左衛門、施与袋杉友染上料等

愛知仏教会の降誕会〔明治29年5月18日 第四一二号〕

来る廿日は旧曆四月八日なるを以て、同会にては同日を以て釈迦世尊の降誕会を為せんとて、去る十五日裏門前町総見寺に各宗取締の協議会を開き、左の件々を議決せられ、尚ほ本紙に付して、市内の読者に配付せる入場券の如く

一大演説会を開かるゝ事となりたり。

一五月廿日（旧曆四月八日）釈迦世尊降誕会執行事

一当日午前第五時を期し、各寺院は梵鐘（或は半鐘）十八声を打点する事

一当日午後正三時より栄町秋琴楼に於て一大祝宴会を開く事

但当日は勿論御出席相成度候得共御差間あらば、其の旨来る

十八日迄に南伊勢町愛知仏教会迄御通報被下度、会費金二十銭当日御持参の事、故に御通報無之候得者、其の準備を可仕

候也

一同夜演説会を開く事（会場等は逐て報告の事）

施薬院の法要〔明治29年5月18日 第四一二号〕
昨日同院に於て、義捐者に対する祖先の追悼并に演説会を催されたり。

曹洞宗学林の始業〔明治29年5月18日 第四一二号〕
久しく休校中なりし当市の同学林は、去る十五日始業式を行はれたり。

因に当日は、当宗務支局下の支分局員十余名の来会ありて、伊藤良英氏及び本社の水野氏并に教員の祝詞あり。監理代理小寺黙音氏の口宣あり。式了つて折詰の饗応ありしが、当日水野氏祝演の大意は左の如し。

本日は当林の始業式に際し招請の榮を得て参列せり。偕教育といふは一朝夕にして其の効果を奏し得べき者に非ず。又其の事業も継続事業にして朝起夕廃すべき者に非ず。然るに本林も從來開閉常なく、為に諸氏が勉学の進歩を阻隔したることなきにも非ざれど、今回愈々本宗の第八中学林とし開林せらるゝ以上は、諸氏も幸に奮勵して本宗の光榮を揚げられん事を望む云々。

法脈会と法戦式〔明治29年5月18日 第四一二号〕
当市上前津町の長松院にて例月行ひつゝある法脈会は、去る十日を以て其第二回を施行されたるが、戒弟の数は月々に増加して、今や百八十名の多きに達せり。仍て当日は山主松浦祖英師が戒師

として夫々の式法を主任されしのみならず、首座法戦式も行ひたる後ち、早川見竜、久田竜峰両氏の説教もありて甚だ盛況なりしと云ふ。

吉祥講の法会〔明治29年5月18日 第四一二号〕
全講第八号支部の所在寺なる当市花車町の光明院にては、今十八日午後一時より幹事及び世話人等総出席にて、報恩諷経并に講員一般祖先追福の爲め無縁大施餓鬼会を営みたる後ち、同講の専任布教師、早川氏が一場の法話をなす筈なりと。

本紙の付録に就て〔明治29年5月18日 第四一二号〕
本紙の付録としたる織田信長公の肖像は当市総見寺の所蔵にして、即ち信長公御在世の砌り、男信雄公親ら筆を把りて書かれしを信長公の御他界後、其の追福の爲めに総見寺を建立し、之れを納められしなり。尚総見寺のことは逐て掲ぐ可きも、総見は信長公の法号なり。

本紙には善那氏、種痘の記事を掲げたる為清洲城は省。

森田悟由禪師の来名〔明治29年5月25日 第四一三号〕
同永平寺貫主には、当市大曾根関貞寺に於て行はるゝ授戒の戒師として麻蔴舌溪を随ひ、去る廿日来名せられ、長谷川太兵衛氏に一泊、翌日は森本善七氏方に泊し、去廿二日午後、森本氏方より関貞寺に移られ、目下授戒会を修行中なるが、戒弟も多く頗る盛

況を極め居れり。

飯田大尉母堂の葬儀〔明治29年5月25日 第四一三号〕

目下台湾守備隊第一旅団の参謀官たる飯田歩兵大尉の母堂には久しく病褥にあられしが、去る十五日逝去せられ、全十七日当市松山町曹洞宗安齋院に於て仏葬儀を執行せられたりし、全日水野道秀、阿知波道全、野田道環の三導師にて僧衆二十余名、会葬者には大迫旅団長、木越参謀長、塚本第六聯隊長、栗飯原第十九聯隊長を始め各大隊長、中村、兵頭、宮沢の各砲兵大隊長を始め将校五十余名数十対の瓶花等にて鄭重なる葬儀なりしと云ふ。

愛知仏教会の祝降誕会〔明治29年5月25日 第四一三号〕

愛知仏教会の祝降誕会

去る廿日（旧曆四月八日）トし、愛知仏教会は前号に記せし如く各宗協同して釈尊の降誕会を祝する為一大祝典を挙行せられしが、当日は午前六時を以て市内の各宗寺院は一十八声の梵鐘を打ち、各寺の仏前にて奉祝の読経を為し、午後三時より栄町秋琴楼に於て祝宴を開きたり。当日は同楼広間の正面に誕生仏を安置し、香を焼き楽を奏したり。一同席定まるや抹茶の饗を為し、初めに水野道秀氏開会の主意を述べ、次に仏教会監督酒井恵遂氏は左の祝詞を朗読せらる。

夫れ誕生を祝することは、上は至尊より下は吾等臣民に至るまで、其佳辰に値ふ毎に一大白を浮べて、以て之れを慶賀する所

以の者は、蓋し其福寿天地と与に悠久ならんことを欲して也。

況んや旧曆の本日は、吾曹仏教徒の特に尊信恭敬し奉る三界の大導師釈迦牟尼仏の降誕し給ひし令辰なり。豈仏教徒たるもの之れを賀し、之れを祝せざるを得んや。茲に恭しく檀を設け、尊像を安置し虔て香華灯燭珍饈を備へ以て、二千年來の慈蔭に酬ひ奉らんとす。茲に仏教各宗の清衆及各団体の諸氏、此の高堂に相会し釈尊降誕の盛典を当市に挙ることは、蓋し是を以て嚆矢と為す。尚冀くば毎歲此花躑を踐て、之れを万斯年に通伝せんことを謹誌。

明治廿九年五月廿日

総見寺住職

酒井恵遂

次に第三師団付従軍僧たりし岩佐氏を始め曹洞宗の田中、増山等の諸氏、其他数氏の祝演あり。大谷派中学寮教授瀨尾音二郎氏の演説あり。陛下の陞歳を唱へ、酒杯の間に胸襟を開きて談話し、尚中村元亮も席末を汚して一場の演説を為し、劉亮たる奏樂と共に和氣藹々の裡に閉会し、夜に入りて新守座に於て演説会を開きたり。その弁士及び演題左の如し。

開会の辞 鈴木義九氏

忠君愛国の精神とは何ぞ 岩佐大道氏

将来の仏教 水野道秀氏

演題未定 小寺黙音氏

自由の主唱は誰とするか 太田元遵氏

仏教大盛論

近藤疎賢氏

降誕会に就て

広間隆円氏

駁平田牧師演説

中村元亮氏

天理教の妄を駁す

玉置法伝氏

当日は雨天なりしにも似ず、聴衆は満場立錫の余地もなく殊に基督教徒の来聴もありしが、了て早川見竜氏は来聴者へ閉会の挨拶あり。復 陛下の万歳を唱へて十一時頃閉会せしが、近来になき盛況なりし。当日は祝典場への人名は左の如し。

温嶽耕堂 近藤得昇 小寺黙音 増山慈照 滝義道 加藤宗俊

徳源寺代理 海福寺 青木亨元 靈山寺 円立寺 本源院 真如

院 法道寺 玉置法伝 羽塚慈眼 富貴原昇導 聖運寺 辻村友

吉 佐藤繹三郎 山田達玄 足立太助 宮本熊楠 伊東洋二郎

中島利七 沢山日慶 山口是法 築梅次郎 小田切昌年 就梅院

延命院 七ツ寺 長円寺 含笑寺 覚正寺 寺部玄良 高田派別

院 鈴木義方 法華寺 金泉寺 二休居士 北折源六 岩佐大道

橋本靈徴 来迎寺 広瀬守一 注田智見 瀬尾音次郎 森田金吾

覚恩寺 本住寺 山田中辰 田中懐光 原宜住 近藤疎賢 竜泉

寺 野田弥十郎 鈴木得真 教円寺 妙善寺 青山三郎 四大寺

小沢要吉 橋本騰蔵 酒井恵遂 早川見竜 河村徳太郎 落合俊

造 鈴木鉢太郎 伊藤栄二郎 河村文六 日下部徳兵衛 水野道

秀 中村元亮

以上

因に当日は、長者町の有志家より奏楽の寄付ありし。

説教〔明治29年6月1日 第四一四号〕

当市南久屋町誓願寺に於て、来る六月三日より凡そ十日間美濃笠松誓願寺住職木村実榮師を招き、毎日午後一時より説教并に百万遍修行すと。

法要〔明治29年6月1日 第四一四号〕

去る十七日は、当市橋詰町慶栄寺内大日本施業院事務所にて、義捐者祖先追吊会執行之節各宗寺院七十余ヶ寺出勤 聖徳皇太寺尊前に於て日蓮宗各寺院読経、次に演説三席、此間奏楽あり。参詣者凡五百余名へ呈茶あり。頗る盛会にてありし由なりしと。

伊藤豊七氏の名譽〔明治29年6月8日 第四一五号〕

当市研屋町の同氏が、護法心の厚きは皆人の知る所なるが、殊に県下大山瑞泉寺の再建には非常に尽力せられし廉を以て、今回臨濟宗妙心寺管長より左の賞与ありたり。

臨濟宗本山令旨の写

尾張国本派別格地瑞泉寺信徒

無尽居士 伊藤豊七

瑞泉寺殿宇歳久しく老朽し、幾んど風雨堪へざらんとす。居士慨然として感じ、豊然として起ち、自ら浄財を義捐し改築の切を始資し、且つ躬を奔走し四方の紳豪を勧誘し是挙を毘贊せしめ竣成、將に近にあり其締構の美なる旧勸に倍層すること幾尋なるを知らず。寔に勉めたりと謂ふべし。平素一諾を重じ、世

道を扶持するの質宗門上与り得てかあること此の如し。真に奇特の行たりを称せざるべけんや。仍て爰に本山従来所蔵の画本一軸を贈り之を表賞す。

明治廿九年五月廿一日

妙心寺派管長 関 無 学

少年会と曹洞教会 (明治29年6月8日 第四一五号)

蒲焼町の太谷派真広寺に設けたる愛知仏教少年教育会にては、昨七日午前八時より例月の定期会を催しされより早川見竜、橘秀円の両氏が出席して一場の演説をなせし由。又た、来る十日午後二時より白川町の大運寺に設けられたる私立曹洞教会本部にては、早川氏が出席して全宗安心の標準たる修証者を通俗平易に講演さるゝ筈なりと云ふ。

全国最広寺院は名古屋別院 (明治29年6月8日 第四一五号)

古社寺保存の爲め、昨年より全国の各寺院はその建築の年代及び由来等を調査し、其筋に呈出したるが、今聞く処によれば全国中最も広き面積を有する寺院は、名古屋における本願寺なりと。

尚徳会婦人会発会式と宗祖降誕会 (明治29年6月8日 第四一五号)

当市門前町本派本願寺別院内尚徳会婦人会にては、来る十日午後一時より同婦人会の発会式を行なひ、又翌十一日正午よりは尚徳

会の発起にて、同別院に於て宗祖大師降誕の祝典を挙げ、本山よりは赤松連城氏臨場さるゝ由にて、余興として寺内に生花会を開き、手煙火を打揚げ奥庭にて園遊会を催し、種々の飲食店などを仮設し、金城軍楽倭楽狂言数番あり。夜に入ては、説教所に於て幻灯会を開き、其間に雅楽倭楽の奏弾ありと云ふ。其の盛況想う可し。

見真大師祝降誕会概況 (明治29年6月15日 第四一六号)

去る十一日、当市真宗本派別院に於て尚徳会員の催されたる宗祖見真大師降誕会の概況を記せんに、全日門前に大國旗及仏旗を交又し、五彩の大吹抜一对及紅白の大法幡を樹立し、全会員及婦人会員には十二時頃より続々参集し、午後一時頃には流石に広き大本堂も立錫の地なき程なりき、時に劉亮たる奏楽の間に講師赤松連城師及別院別堂、市内寺院並に役僧二十余名出席誦經(正信偈)あり。次に赤松講師は人法不二と謂へる一席の講話あり。次に全院書□に於て能狂言(不須、清水、宗論)演ぜられ、市内法中惣人の祝辞、宮本幹事演説、大衆和音典唱歌あり。亦庭園中にては園遊会を催され、新緑蒼翠の間に呈茶店、寿し店、菓子店、酒舗、水塵、料理店等の設けあり。亦軍楽隊の一団は断へず軍楽を吹奏する杯、一段勇壮に感ぜられたり。殊に庭中の小高き処竹林の間(月の輪道)の標柱あり。登らば一亭あり、しぐれの桜湯と認めたる謀を掲げ、此に桜湯を供す。幹旋の諸士烏帽直垂の服装にて頗る興味ありたり。全日園遊会員は八百余名と見受た

り。夜に入りて總會所に於て見真大師一代記の幻灯会あり。広間隆円氏の詳細なる説明あり。亦庭中にて仕掛煙火及数百の小煙火を掲げ、最も盛会なりき。

愛知吉祥講支部の法会〔明治29年6月15日 第四一六号〕

当市矢場町の万年寺内に設けられたる愛知吉祥講支部にては、去る十二日午後二時より全講幹事の諸寺院を始め世話人が惣出席にて宗祖承陽大師の報恩法会を営み、夫れより講員一般祖先追福の爲め無縁大施餓鬼をも施行し、早川見竜氏を招聘して一場の説教を催したる由。尚ほ当日の参拝者一同へは早川氏の講述に係る「法の礎」を施与せしと云ふ。

追吊法会〔明治29年6月29日 第四一八号〕

来る一日二日、当市橘町妙善寺に於て日蓮宗各寺院及び檀林学生の出席等ありて、今回の海嘯死亡者の爲め一大追吊会を執行せらるゝよし。当日は説教等も有りと聞く。

追吊法会〔明治29年6月29日 第四一八号〕

来る七月一日午後一時より、当市伊勢山町洞仙寺に於て三陸水災横死者の大法会を修行せらるゝ由にて、目下全寺江湖会修行中に於て、曹洞宗大本山僧堂雲納三十余名安居中にて、殊に全日は西堂鷹林冷生師が導師を勤めらるゝ筈なりと云ふ。

大悲講執行〔明治29年6月29日 第四一八号〕

予て昨年六月より組織せられたる当市内真宗大悲講之義、本月其の第十三回を当市飯田町養念寺に於て、去る廿五日開会せられしが、当日参聴せし受救者の数は二百数十名と、外に或る講員より特別に一百名分の施米ありければ、何れも謹聴の上喜悅満面に溢れ施米を受けて帰りしと云ふ。而して其貧民は重に芳野町筒井町清水町出来町等なりと云ふ。実に斯る慈善事業の其月に挙る喜ばしきことを云べし。猶口講は一層拡張の主意を以て追々講員の募集に着手せらるゝ由。目下の講員は三百名内外なりと云ふ。

追吊会〔明治29年6月29日 第四一八号〕

本月十七日、西春日井郡名塚村宗円寺に於て村内慈善家發起にて三陸水害溺死者追吊会を仏行し、義捐勧誘の爲近藤疎賢氏を請し演説会を開く由。又来る十九日、同郡杉村久国寺に於て住職近藤疎賢氏發起者となり、三陸水害溺死者追吊法会並に義捐金勧誘演説を修行する由。

追吊会〔明治29年7月6日 第四一九号〕

来る七月七日午後一時より、当市門前町極楽寺内西山派東部宗務支院に於て同派各寺院の共挙にて海嘯溺死者の追吊法会を執行せらるゝよし。

各宗同盟仏教会の追吊会〔明治29年7月6日 第四一九号〕

去る廿五日、同会の本部なる味岡村の松林寺に於て、会員総出席にて追吊大施餓鬼会を営まれたり。因に記す。全会臨時要急事件に付総会を開き、其残務は去一日陶昌院に於て整理し罹災救恤運動に着手せられたるよし。

追吊法会〔明治29年7月6日 第四一九号〕

当市橋町栄国寺内浄土宗西山派宗務支院に於て、去る一日二日両日共、組合内寺院出頭し溺死者の追吊大法会を修し、尚阿村教順師の説教等も営まれたり。

学林の追吊法会〔明治29年7月6日 第四一九号〕

曹洞宗第八中学林学生の発起にて、去る廿五日当市東田町乾徳寺に於て三陸水害横死者の大追吊法会を修行せられたり。全日派内取締温嶽耕堂師の導師にて、職員山田祖学、田中懐光、稲寸篤恭諸氏も参列せられ、学生五十余名出席最と鄭重なるし施餓鬼会を修せられたり。了りて説教ありしが参詣者も多く盛会なりき。

新栄社の追吊会〔明治29年7月6日 第四一九号〕

前号に記せし如く、去る一日当市門前町大光院に於て海嘯罹災死亡者の法要を行はれしが、同日は一千余名の職工は孰れも参詣して頗る盛況なりき。

広告〔明治29年7月6日 第四一九号〕

一金一百二十円十銭 三陸罹災者へ
義援金 真金城社に依託

本月六日午前九時門前町大光院に於て

三陸海嘯死亡者追吊会

会員諸君は万障御繰合せ御参詣有之たし

名古屋古着商真理協会

追吊法会〔明治29年7月6日 第四一九号〕

去る四日午後一時より、当市門前町西別院に於て市内有志法中と別院内法中と共同し数十名出勤し、三陸水災死亡者追吊法会を盛んに執行せられし由。

孝子教会の追吊法会〔明治29年7月6日 第四一九号〕

去る四日、当市大津町光円寺に於て、同会の発起にて三陸大海浪死亡者追吊法会を執行せしが、導師は同寺住職にて出勤、法中は珉光院、長徳寺、長円寺、楽運寺、聞安寺、正福寺、安浄寺、守綱寺、常念寺、淨信寺、其外当市在住の役僧数十名にて読経あり。次に黒田安麿、荻倉耕造、広間隆円氏等の演説了て木村祐専氏の説教あり。参詣は数百名にて、即坐に義援金若干円纏り、尚又法中等へ茶菓の饗応ありて、殊に叮嚀ある法会にてありきと。

軍人のために説教〔明治29年7月6日 第四一九号〕

昨五日午前八時より、当市南外堀町七間町行き当り真宗説教場に於て、軍人説教開会せしが、軍人数百名謹聴せられし由。尚又例月同場に於て、大谷派別院軍人説教を除くの外、毎日曜日に開会し来りと云ふ。

追吊法会 三河国幡豆郡西尾町康全寺に於て、去る四日五日両間、三陸地方溺死者の爲め追吊大法会を営み、尚当市の近藤疎賢を請して義援金誘の爲め仏教大演説を開きたるよし。

曹洞宗の海嘯慰問〔明治29年7月6日 第四一九号〕

曹洞宗向大本山貫者は今回、特に伊藤覚典氏を被害地視察及び宮城岩手青森三県宗務支局へ派出を命じられしが、同氏は宮城県にて五名、岩手県にて十名、青森県にて三名の僧侶を抜擢して海嘯の爲に死せし者を吊ふ爲に導師を請じ、尚其の手續を調査する爲め宮城県にて阿部大環、岩手県にて大友堅孝、青森県にて上田祖堂の三氏へも夫々委員の任命ありたり。尚別項参照

愛知郡上郷村の結制安居 同郡同村大字熊張曹洞宗永見寺に於ては、過般衆僧及信徒集合し結制安居中の処既に満期に至り、去る五日三陸溺死者の追吊法会を修し、併て大演説を開会し離散したりと云ふ。

手代の美拳〔明治29年7月6日 第四一九号〕

当市伝馬町某店に奉公しつゝある新良岩三郎氏は、私資を投じて

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（六）

三陸溺死者の追吊法会を門前町大光院にて執行せら。

追吊会と演説〔明治29年7月13日 第四二〇号〕

明後十五日、午後一時より当市宮町出永安寺に於て、曹洞宗第一号支分局下寺院諸師の發起にて東奥三県海浪非命惨死者の爲め追吊大法会を執行し、安齋院方丈を請し説教を開筵せられ、水野道秀氏の仏教演説もある由。

尚徳会の演説〔明治29年7月13日 第四二〇号〕

昨今の両日、西別院にて於て藤島了穂氏来名同会の講話ありたり。

大谷派の追吊会 当市大谷派の各寺院にては、昨十二日別院内対面所に於て、三県海浪の際に死亡せし者の爲め追吊の法会を営まれたり。

私立曹洞教会の例会〔明治29年7月13日 第四二〇号〕

去る十日、当市石切町大運寺に於て同教会を開き、山田祖学氏の説教ありたり。

海嘯溺死追吊会〔明治29年7月13日 第四二〇号〕

尾州愛知郡広路村曹洞宗太平寺に於て、本月十五日午後一時より第二号支分局内組寺院二十余名の僧侶集合して三陸大海嘯溺死追吊大法会を修行し了て、水野雷幢氏外数名の義捐金勧誘の仏教演

説ありと云ふ。▲尾張国愛知郡熊張村曹洞宗永見寺は予報の如く、六月三十日羅漢供養、七月一日大布薩、七月二日三陸追吊会を修行せしに、三日共参詣は堂に溢れ最も盛大なりし。就中追吊会には、当村役場員村会議員初め近郷近在の参詣無慮七八百に及び、演説中は最も整肅に聴衆の感動不尠、各々散会せしは午後七時なり。▲又三河碧海郡刈谷町松秀寺に於ては、去る六月三十日より三日間雲柄廿余名を請し、三陸海溺死者追吊会を盛大に執行し、昼夜共田中是門師の説教あり。

西山派の法要〔明治29年7月13日 第四二〇号〕

明十三、十四の両日、午後一時より当市白川町桜誓願寺に於て浄土宗西山派宗務支院布教講月並説教に付、海浪の死者追吊並に放生会を修行せられ、教師は澗江朴文師の由。

追吊会と演説〔明治29年7月20日 第四二二号〕

愛知郡呼続村大字新屋敷医王寺に於て、去る十五日三陸溺死者大追吊会を修し、続て演説あり。△十六日午後一時、東春日井郡二城村大永平寺に於て教会組合寺院参集征清及台湾戦死者の追吊及三陸溺死者の法会を修し、続て演説あり。△十七日午後一時知多郡常滑町天沢院に於て全分局下寺院参集し、全追吊大施餓鬼会を修し、続て演説あり。△十八日、当市花車町光明院に於て午後一時より吉祥講第八号支部の三陸横死者大追吊会を修し、続て説教あり。△廿日午後一時より岐阜市木造町勝林寺、廿一日加納町久

雲寺、廿二三日愛知郡香掛正応寺、廿四五両日知多郡布土村心月齋院に於て追吊会及説教にて、何れも水野氏が出席せる筈なりと云ふ。また、昨十九日知多郡加木屋村普濟寺に於て、曹洞宗第十四号支分局寺院三十七ヶ寺同盟し三陸海浪死亡者追吊大法会を執行し、佐治大謙、青山鶴道両師の説教ありと。幸ひ同日は土用の初日なるを以て、近傍十五ヶ町村よりは（俗に知多郡弥陀さん）と云三尊仏を持ち集り虫供養を行ひ、近郷の老若男女踵を接して参詣し中々盛会なりき。又去る十五日、同郡日永村福田寺にて海浪死亡者追吊法会を執行し、佐治大謙師の説教ありたり。

曹洞宗中学林の試験〔明治29年7月20日 第四二二号〕

当市布ヶ池町の同林にては、来る廿三日より定期学年の大試験を举行せらる。

海嘯溺死者追吊会〔明治29年7月20日 第四二二号〕

尾州愛知郡烏森村曹洞宗禅養寺に於て、本月廿六日午後一時より組合寺院二十余の僧侶を集め三陸海嘯溺死者追吊法会を修行せられ、且つ同宗布教師水野雷幢氏の説教ありと云ふ。

追吊会〔明治29年7月20日 第四二二号〕

去る十三日午前十一時、名古屋市桶屋町福泉町に於て尾張国天台宗寺院出勤三陸海嘯罹災群霊の爲め一大法会を修し、且つ義捐勸誘演説説教執行せられたり。

剋期講習会〔明治29年7月27日 第四二二号〕

当市松山町曹洞宗安齋院僧堂内に於て、去る廿五日より題の如き講習会を開き正法眼蔵弁道話を講ぜらるゝ由にて、今回は七日間にして終了し、爾後秋期冬期等郡部寺院の閑暇の時期を見斗ひ開設せらるゝ由にて、郡部寺院にて全僧堂へ掛錫し講習を申込みしもの数十名ありしと云ふ。全院に於て、右講員の為めには無料にて宿泊食事等は給せらるゝ筈なりと云ふ。

追吊法会〔明治29年7月27日 第四二三号〕

去る十七日午後一時より当市替地町高田別院に於て、今回の三陸海嘯死亡群霊の爲め盛大なる一大法会を執行され、尚ほ安藤諦徴氏の説教もありたり。

故堀部勝四郎氏の法会〔明治29年8月3日 第四二三号〕

前代議士故市会議長堀部勝四郎の爲め、去る廿六日当市門前町大光院に於て商業会議所会員、市参事会員、市会議員の諸氏相会して追善法会を執行せられしが、全日は大光院主竜桑巖師の大導師にて、奠茶導師には泰増寺主稲寸篇恭氏、奠湯導師には靈鷲院主伊藤文梁氏にて僧侶五十余名出席鄭重なる大施餓鬼を修し、続て会頭奥田正香氏及渋谷良平氏の祭文あり。柳本市長、安藤助役を始め一同焼参拝の後ち、清齋の配膳あり。全日は堀部登喜三郎、堀部鉦太郎の二氏も参拝せられ、頗る盛会なりき。尚奥田氏の吊文等は別項にあり。

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教(六)

追吊大法会〔明治29年8月3日 第四二三号〕

当市伊勢山町曹洞宗洞仙寺にては、大本山出会にて江湖会執行の処、今回三陸溺死者第二回追吊会として、来る八月一日羅漢供養、二日大布薩、三日大般若及び大施餓鬼並に説教等修行せらるゝ由。

施薬院の患者治療〔明治29年8月10日 第四二四号〕

大日本施薬院に於て、廿九年一月より六月三十日迄に施薬を請たる者は二百四十七名にして、内死亡七名、全治六十一名、又在患者の内大手術を受たる者は先に泥汽車に触れて口負傷をしたる枇杷島町小出定吉は、愛知病院にて全治す。知多郡横須賀村榊原たいは脹満症に罹り、好生館にて治療を受け全治す。当市高島町大島竹次郎も脹満症にて中川順二氏に係り治療中之処、本月廿六日死亡す。飯田町加藤かねは去年九月大火傷して、本院より久野東英氏え係り未だ大治療中。又三陸罹災者金三円義捐す。

説教〔明治29年8月17日 第四二五号〕

本市飯田町養念寺に於て、来る十一日より十五日まで竜華空音氏を招き説教を開筵する由。

施餓鬼と演説〔明治29年8月24日 第四二六号〕

愛知郡寛政村観音堂にては、来る廿四日大施餓鬼会を修し、続て社員水野氏の演説を催さるゝと云ふ。

伊藤寛典氏の帰省〔明治29年8月24日 第四二六号〕

曹洞宗東京本局詰なる伊藤寛典氏は、旧盆にて帰省せられしが兩三日にして直ちに帰京せらるるといふ。

各寺院の盆施餓鬼〔明治29年8月24日 第四二六号〕

今廿四日南小川町正徳院、全古渡町東海寺、廿六日松山町安齋院、七小町普蔵寺に於て執行さるゝよし。

飯田道一氏の渡天〔明治29年8月30日 第四二七号〕

前項に記す釈守愚氏と共に、愈々去る廿七日午後当市出發渡天の途に就かんとて神戸に向け発足せられたり。

牧義遵氏の法要〔明治29年9月14日 第四二九号〕

昨日は当市松山町梅屋寺に於て同氏追悼の法要を行はれしが、同日は将校以下数百名の参拝ありて頗る盛大なりしが、委しくは次号に報ずべし。

半僧坊の祭典〔明治29年9月14日 第四二九号〕

名古屋広小路の同出所にては、来る十六七両日例年の如く祭典を行はるゝに付き、奉納手踊り角力二口加の催しあり云。

広告〔明治29年9月14日 第四二九号〕

本部大光 秋期法会（御開山御祥忌）
院ニ於テ

永平寺貫首猊下 ヲ拝請致シ、左ノ日時ニ執行致シ候条、御参詣被成降度候也

○九月廿四日午前十時ヨリ迎聖諷經、説教

全日午後一時ヨリ御逮夜誦經、御親教

全廿五日午前九時ヨリ講員先祖大施餓鬼会

全日午前十一時ヨリ御祥忌誦經、御親教、全日午後一時ヨリ

軍隊忠死者各地横死者追吊法会御親修

愛知吉祥講本部

追吊大施餓鬼并に大演説〔明治29年9月21日 第四三〇号〕

去る廿日午後一時より、当市南鍛冶屋町万福院に於て三陸大海嘯并に各県下水害溺死者万霊の爲め、彼岸会に因み追吊大施餓鬼了て村手秀盛氏を招きて大演説を開会せし由。

渡天僧の通信〔明治29年9月21日 第四三〇号〕

渡天僧飯田道一氏には、過日名古屋を出發せし後、京都に滞在中なりしが、同行の釈守愚氏と共に、去る十三日京都出發大坂に着後、天保山より汽船にて神戸に渡り渡航の準備を了り、十五日正午出帆の土佐丸に乗り込み出發せし旨通信ありたり。尚ほ氏が印度よりの厂信は一々本紙に記載すべき筈なれば、読者其の心して待ち玉はん事を、因に氏の一行が今回京都より大坂に赴く途中は恰も大雨後にして、汽車にては一切荷物の運送を取扱はざりし爲に、氏が一行の荷物凡三十貫目に余るより如何ともする事能は

ず。去り連十五日には、土佐丸は出帆すべければ、是非之れに乗らざるを得ず。仍て一行は止むなく荷物のために生来初めて上等客車に乗りたりとて、通信の端に呵々として記しありたり。

鵜飼祖箴氏の津葬

〔明治29年9月21日 第四三〇号〕

鵜飼祖箴氏の津葬は、去る十七日に小幡村長慶寺の旧坊にて行はれしを以て、愛知仏教会より水野道秀氏、又能仁社員代表として中村元亮も会葬せしが、当日の導師は徳源寺老主にて当市より会葬の方もありたり。

久国寺の認可僧堂開堂式

〔明治29年10月26日 第四三五号〕

去る廿二日は、当市杉ノ町久国寺に於て今回僧堂の認可ありし披露を催されしが、同日は門前に球灯を釣るし、隣家に寺院方の案下所を設けられし等注意頗る行き届けり。午前十一時より開堂式挙行の筈なりしも招きに応ぜられて参堂せし者に応膳ありしが、其の数の非常に多かりし為にか、午後二時に至るも尚ほ饗膳を終る能はず斯る有様なりしを以て食中に演説を催し、早來者の鬱を晴さんとして近藤氏第一席を演じ、次に高岡徹宗氏登壇、座禅儀の話しあり。中村も強ひて登壇を促され、辞するを得ざるより一席を弁し了るや、入堂の法鼓鳴り引き続き、同宗にて名高き問答の法式あり。午後五時頃に式を終られしが、近来になき非常の景況なりし。

大光院の認可僧堂

〔明治29年10月26日 第四三五号〕

当市の大光院も久国寺と同じく認可僧堂となりしより、来る一日開堂式を行はるゝやに聞く。右に付教師として早川見竜氏を聘する事となり、同氏は開堂前に同院へ移住せらるゝならん。

広告

〔明治29年10月26日 第四三五号〕

来ル十一月十五日始 当市裏門前町

授戒会 万松寺

戒師 大本山永平寺大禪師

泰増寺の梵鐘

〔明治29年11月2日 第四三六号〕

当市南小川町の同寺は、前市会議長堀部勝四郎氏代々の檀寺なるが、今回氏の遺族より偉徳院松屋永寿居士（勝四郎氏）、靖徳院松齡鶴寿大姉供養の爲めに直径二尺三寸の鐘を鑄り、総持寺大本山執事石川素童氏の銘を乞ひ、鍋屋町水野鑄工にて去る廿九日出來に付同寺へ引移されしが、鐘楼は檀中一同より寄すとの事にて、全く成工は明年一月なりと。

歩兵第六聯隊招魂祭の盛況

〔明治29年11月2日 第四三六号〕

去る三十日、兼て記載の如く挙行せられたる同祭は、出來町陸軍埋葬地に今回新たに設けられたる戦死者一百七十七名の墓前に祭壇を建て、前日午後十時に御靈降を権中教正大島為足氏、即ち当日の祭主以下にて行ひ、翌日は煙火の響と共に喇叭の吹奏に連れ

て大迫旅団長以下の参拝あり。各隊順次に捧銃式を行ひ、了て仏式に移りしが第一には、真宗大谷派は伽陀に阿弥陀經、次に徳源寺大衆は三関実叢師の導師にて、次に浄土宗は大森大仙寺の竹田氏導師となりて小経を、次に本派本願寺の読経あり。此の際は曹洞、臨濟、真言、浄土、日蓮、同三派、高田派等の各教導取締の諷経あり。此の際は殊に衆人を伴ひて奏楽を催したり。了て広間隆円師は遺族に対し一場の演説を為したりしか、各人何れも打ち沈みて謹聴せり時に、十二時を報ぜしを以て式を終られたり。戦死の人数を聞くに、

大尉二名、中尉四名、三等軍医一名、軍曹十三名（一等八名、二等五名）三等看護長一名、上等兵十八名、一等兵七十七名、二等兵二十九名、輜重輸卒一名、雇靴工一名、総数百七十七名

近藤疎賢氏山陰に赴く〔明治29年11月2日 第四三六号〕

別項広告の如く同氏には、山陰地方に赴かるゝに付、一昨夜雲衲二十余名を率ゐて笹島を出発されたり。

臨濟宗妙安寺住職の処罰〔明治29年11月2日 第四三六号〕

数年来同宗内の厄介者となり居たる同寺の前住は、愈々左の如き処分により宗内擯斥即ち同宗の僧侶たる分限を奪はれたり、世の亀鑑として罰文を全録します。

宣 誠 状

尾張国愛知郡熱田町字新尾頭

本派一等地妙安寺元住職

宮 田 智 俊

宮田智俊は明治二十八年中尾張国妙安寺檀徒と称する川地のぶと云へる者と牒合し、安藤兼吉なる者を代理とし、本派管長又は稲葉元厚が明治廿七年九月名古屋地方裁判所の囑托を受け是れか、取調を為したる京都地方裁判所に於て立証したる証言は相違の陳述なることを告発せり。於之乎京都地方裁判所は廿八年十一月六日、執事稲葉元厚を召喚し陳述せしむる所ありて一時留置し、同月十五日責付となり同月廿五日全く免訴したり。右は稲葉元厚の顛末上申書に徴し及、当時宮田智俊の現行に依り証跡歴然たり。

蓋し、元厚か留置せられたる所以のもの素と判事の所断に出て何等の理由に依りたる乎を知るに由なしと雖も、結局免訴せられたるに至りては、先に宮田智俊等告発したる所以のものは却て己れが相違に出て、或は則ち事実の捏造を為したるやも未だ知るべからず。況んや相違の証言を為す等のことは是を不道不義の輩に向て責むべき時ありとするも、是を管長又は執事として恒に徳義の中心に在りて幾万の道俗を統理する者に対して、敢て為すべきものならんや。縦令や一步を譲り、管長執事も尚ほ寛恕すべからずとするも宮田智俊は、末派僧侶の分際として其師長に対し諫争を為すに於て、何ぞ憚りありとせんや。其是れを諫争するの实情に出でずして、是を世の法律に問はんとするは僧侶として苟も為すべき至当の事とすべけんや。

又宮田智俊は、尾張国妙安寺住職中其寺産物を私擅濫用し本務を失却する廉を以て、明治廿五年七月八日本派懲誡例に依り住職を剥奪せられたり。是れに依りて之を觀るに、宮田智俊か僧侶本分の徳義を省顧せず。今や殆んど師長に対し危害を加へ、又は世俗すら卑しむべき羈絆を以て累を道德者に試みんとするが如きは、毫も己れが僧侶たる分限を反省する者に非ること既に明らかなり。

抑も本派僧侶は、管長を推奉し及管長の提訓に随順すべきは僧綱の規定尤も明白なり。宮田智俊は是を推奉し、又随順するの實なく反抗して相争はんとす。僧侶本分の徳義を守る等の行為なりと□すべけんや。

以上の事実に対し、宮田智俊が行為を推究するに管長の訓誡に従はず。又管長に対し不敬に渉る行為をなし、共に僧侶本分の徳義を欠くことある者なりと断定す。之れに依りて宮田智俊は、本派懲誡例第九條第一項第八項及第八條第一項に問ふべきを至当とし、第九條に該当するものは懲誡例第二條第二項を適用すべく其中一の重き第八條第一項に照らし宣誡すること左の如し。

宮田智俊を擯斥に処す (廿九年五月廿日付)

広告 (明治29年11月2日 第四三六号)

拙納儀、是れ迄七小町普蔵寺に寓居仕居り候処、今回都合に抛り門前町大光院へ転錫仕候。就ては自今拙納に対する書信等の御発

送は、右大光院宛にて御投函被下度、此段辱知諸君に拝告す。

早川 見竜

広告 (明治29年11月2日 第四三六号)

来ル十一月十五日始 当市裏門前町

授戒会 万松寺

戒師 大本山永平寺大禪師

僧堂開單式の実況 (明治29年11月9日 第四三七号)

当市門前町大光院の現任職なる竜桑巖師は、過般曹洞宗の両大本山より正師家たるの資格を与へられしを以て、一方の宗匠として既に法運を挙揚するには、其手運びとして是非とも僧堂の認可を得ざる時は何にかの不都合極めて少なからざるが為に、兼てより兩本山へ向て該僧堂の認可あらん事を出願中の処ろ、此又た願意を聞届けられしを以て、去る一日愈よ此れが開單式を挙行せられたり。今その実況を記せんに、当日は早天より諸般の準備に急はしき様子なりしが、聽て全院の山門を始め本堂の内外に至るまで仏旗又は大小の幔幕を以て荘飾せられ準備何にかと怠りなく、愈よ予定の時刻に達するや、全宗に於ては最重なる上堂の法式が始り。法鼓の響くと俱に山門の両序并に随喜の諸寺院は威儀正しく式場に立定せり。是に於てか桑巖師は、大打鼓を相図に五人の侍者を率て式場に臨み、直ちに須弥壇上へ登壇して最と懇ろに法香を拈じて、天皇陛下の聖躬万歳を祝演し、次ぎに文武の官諸僚

属を始め檀信徒より上は、三国伝灯歴代の仏祖に至る迄で一々鄭重に拈香し了りて後ち大問答とはなれり。当日は会中詰合の淨象は勿論、桑巖師が嘗て中学林に監理として青年僧侶の薰陶に従事されたる縁故を以て学林生徒七十余名の随喜者ありたるが為め、問答中一層の活気を添へ、余所目乍らも禅機の活作用は斯くなるものかとの思ひを起さしめたり。夫より提綱を経て謝語等に移り、全たく式の終りたるは午後一時三十分頃ろなりしが、当日の白槌師は温嶽耕堂師が勤められしといふ。因みに記す、当日の來賓は八十余名の寺院と外に檀信徒三百余名にして、一々折詰の饗応もありて頗る盛況なりしと云ふ。

大道社員の來名〔明治29年11月9日 第四三七号〕

鳥尾得菴居士等の發企に係る大道社の幹事たる藤本重郎氏は、此頃ろ中來名して門前町の大光院に宿泊し、社務拡張の第一着として専ら社員の勸募に従事されしと。

愛知吉祥講本部の大法会〔明治29年11月9日 第四三七号〕

愛知吉祥講本部にては、毎年春秋の二期に越大本山貫主猊下の臨場を乞ふて大法会を執行するの定めなるが、来る十三日は恰も其定日なるを以て、該本部たる大光院に於て大禪師御臨席の上幹事の諸寺院等が惣出席にて、最初には両祖真前へ報恩の諷経を行ひ、夫れより講員一般祖先追福の爲め無縁の施餓鬼をも営み、終りに貫主猊下の御親化ある筈なりと云ふ。